特253
669

第三十三回近畿婦人科學會總會目錄

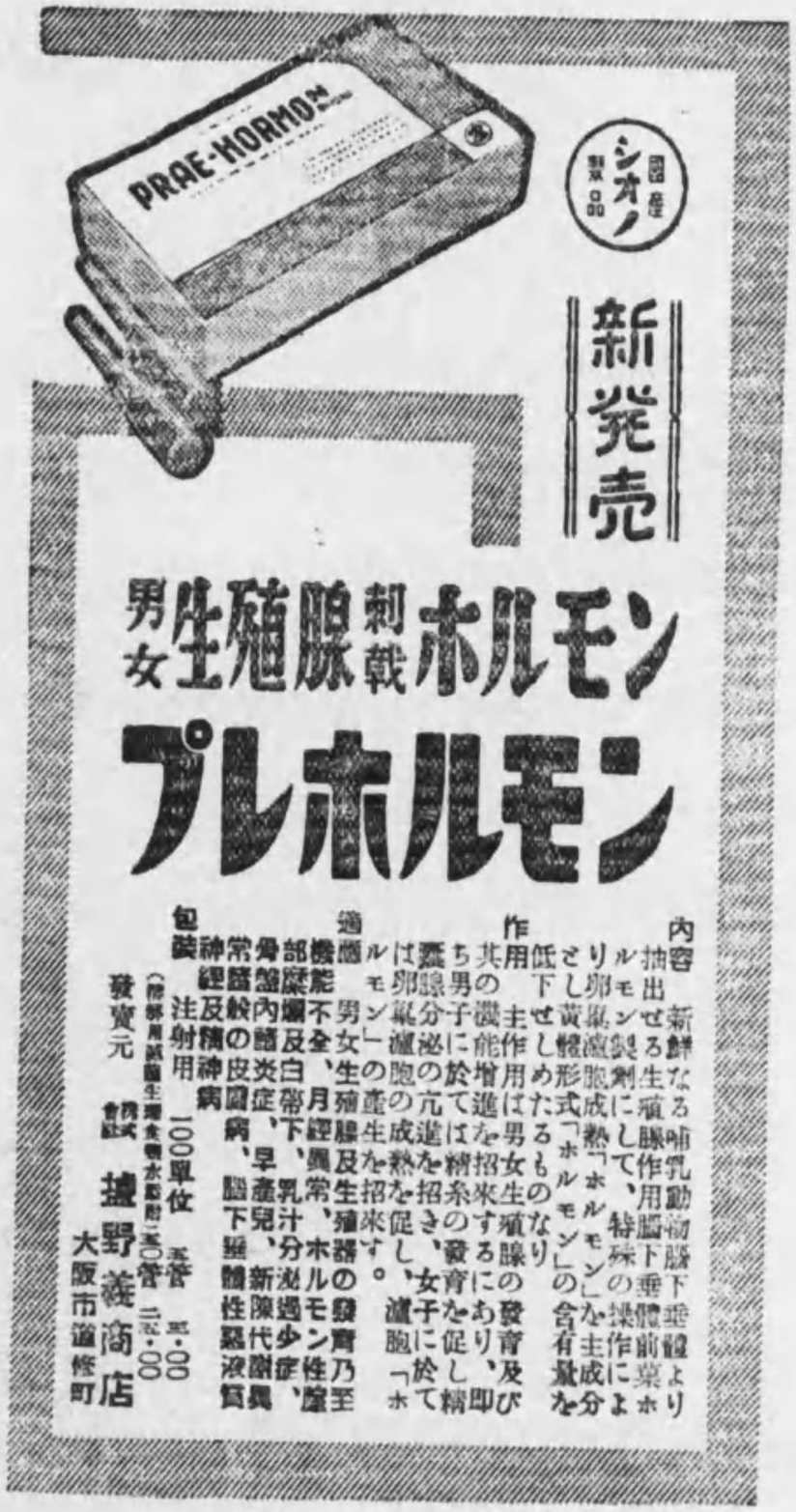
日時 昭和十一年三月二十九日(日)午前八時三十分

會場 京都帝國大學醫學部產婦人科學教室講堂

始

露光量違いの為重複撮影

特253
669



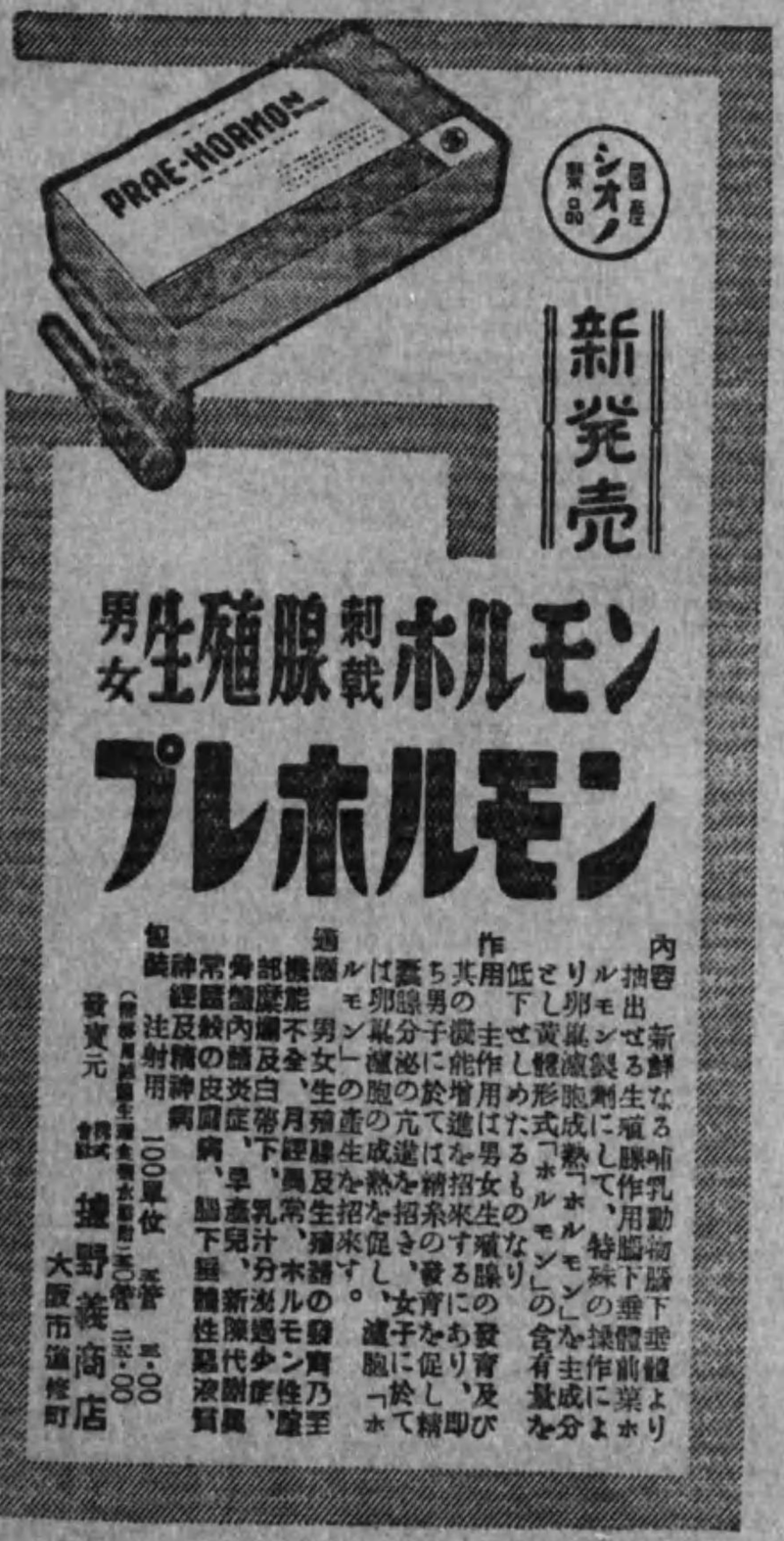
學會次第

一、開會ノ辭（午前八時三十分）
二、庶務、會計報告
三、議事
四、演說
五、正午休憩（正午ヨリ一時迄）
六、懸賞論文高山賞授與式
七、演說
八、特別講演（午後四時三十分ヨリ）
九、閉會ノ辭
十、有志懇親會（午後六時三十分ヨリ都ホテルニテ）

近畿婦人科学会寄贈本

露光量違いの為重複撮影

特253
669



國産 シオノ 製品

新発売

男女 生殖腺刺戟ホルモン

プレホルモン

内容 新鮮なる哺乳動物腦下垂體より抽出せる生殖腺作用腦下垂體前葉ホルモン製剤にして、特殊の操作によりホルモン、卵巣濾胞成熟「ホルモン」を主成分とし黄體形式「ホルモン」の含有量を低下せしめたるものなり

作用 主作用は男女生殖腺の發育及び其の機能を増進し招來するにあり、即ち男子に於ては精系の發育を促し精嚢腺分泌を亢進を招き、女子に於て卵巣濾胞の成熟を促し、濾胞ホルモンの產生を招來す。

適應 男女生殖腺及生殖器の發育乃至機能不全、月經異常、ホルモン性腟部糜爛及白帶下、乳汁分泌過少症、骨盤內膜炎症、早產兒、新陳代謝異常、腦下垂體性惡液質、皮膚病、産後神經及精神病

注射用 100單位 五管 一·〇〇 二五·〇〇

（帝國薬品生産全國衣服附二五〇管）

發賣元 株式會社 壇野義商店 大阪市道修町

學會次第

一、開會ノ辭（午前八時三十分）
二、庶務、會計報告
三、議事
四、演說
五、正午休憩（正午ヨリ一時迄）
六、懸賞論文高山賞授與式
七、演說
八、特別講演（午後四時三十分ヨリ）
九、閉會ノ辭
十、有志懇親會（午後六時三十分ヨリ都ホテルニテ）

近畿婦人科学会寄贈本

帝國圖書館藏

演說順序

第一部（午前八時五十分——同十時）
第二部（午前十時——同十一時）
第三部（午前十一時——同正午）
（晝　食）
第四部（午後一時——同二時）
第五部（午後二時——同三時）
第六部（午後三時——同四時）

特別講演　午後四時三十分ヨリ

演者注意

（演者ハ左ノ諸項ヲ嚴守サレタシ）

一、講演ハ一人六分以内トス。二題以上引續キ出題ノ方ハ一題ニツキ四分以内トス

二、電鈴ハ左ノ如ク鳴ラス。
第一電鈴（制限時間一分前）
第二電鈴（降壇合圖）

三、演者ハ必ズ豫定ノ時間三十分前ニ所定ノ席ニツカレタシ

四、追加、對論ハ其ノ部門ノ全演說終了後ニ座長ノ許可ヲ得テ行ハルベシ。

五、圖表ハ一枚 100cm×80cm 以内トシ、講演ノ順序ニ重ネテ一纏メニシ、御來會ト同時ニ受付ニ渡サレタシ。（標本等モ同時ニ）

學會演題目次

座長　山田一夫君

第一部（午前八時五十分——同十時）

一、人子宮癌ノ象形複成模型　伊藤正道（岡大）

二、余等ガ考案セル三用「キモグラフイオン」（血壓、子宮收縮運動、膀胱壓）裝置ニ就イテ　〔藤森速水（大阪北）吉村正太（野病院）〕

三、本邦人膣壁ニ分布スル末梢神經ノ組織學的研究　尾崎正保（京大）

四、雌性家兎ニ於ケル動脈硬變ノ實驗的研究　片平年秋（大阪鐵道病院）

五、「アデノミオージス」ノ實驗的研究　萩野延次郎（大阪市民病院）

六、卵巣及ビ腦下垂體前葉機能ノ麻醉ニ及ボス影響ニ就イテノ實驗的研究（其ノ一）　佐々木舜次（京大）

七、異種蛋白非經口的投與ガ造血臟器、內分泌臟品及ビ實質性臟器ニ及ボス影響ニ就イテ　〔小南吉男（京大）岡本さかき〕

八、產褥並ニ腦下垂體前葉「ホルモン」及ビ卵胞「ホルモン」投與ガ實驗的貧血ノ恢復ニ及ボス影響　合阪俊二郎（大高醫）

九、「アクリヂン」系色素ニ關スル研究（第一回報告）網狀織內被細胞系統機能封鎖後ニ於ケル該色素尿中排泄狀況ニ就イテ　水野一正（大阪北野病院）

十、「アクリヂン」系色素ニ關スル研究（第二回報告）「アクリヂン」系色素劑靜脈內注射ニ依ル血壓ノ變化ニ就イテ　水野一正（大阪北野病院）

十一、「アクリヂン」系色素ニ關スル研究（第三回報告）「アクリヂン」系色素劑靜脈內注射ニヨル血液像並ニ赤血球抵抗ノ變化ニ就イテ　水野一正（大阪北野病院）

第二部（午前十時——同十一時）

座長　小榮次郎君

一、性「ホルモン」ト血液凝固作用　石川昂（岡大）

二、子宮附屬器炎ノ「プレホルモン」療法　山本幹爾三（岡大）

三、母體膵臟機能障碍ガ女性胎兒性腺ニ及ボス影響ニ就イテ　谷岡只雄（大阪北野病院）

四、母體腦下垂體機能障碍ガ女性胎兒性腺ニ及ボス影響　谷岡只雄（大阪北野病院）

五、尿中前葉「ホルモン」排泄ニ關スル研究（續報）男性尿ニ於ケル「ホルモン」量測定　小榮次郎（京大）岡本さかき　中村敏夫

六、腦下垂體前葉性「ホルモン」ノ皮膚塗擦實驗成績　中村身加榮（東京）

七、腦下垂體後葉製劑ニ對スル家兎子宮、血壓及ビ膀胱ノ感受性比較試驗ニ就キテ　藤森速水（大阪北野病院）吉村正太

八、家兎子宮筋收縮運動ニ對スル所謂腦下垂體前葉「ホルモン」及ビ黃體「ホルモン」ノ影響並ニ之レ等「ホルモン」ノ相互關係ニ就キテ　藤森速水（大阪北野病院）池上孟雄　吉村正太

九、子宮癌患者體內卵胞「ホルモン」產生ニ關スル考察（續報）、子宮癌腫組織內ノ「ホルモン」量測定　小榮次郎（京大）岡本さかき

第三部（午前十一時——同正午）

座長　八木日出雄君

一、胎兒腎臟ノ病理組織學的研究　津田信吉（京大）

二、臍帶血液瓦斯ノ研究　野口昌信（京大）

三、妊娠「ネフロパチー」屍體ニ於ケル心筋ノ病理組織學的變化ニ就イテ　筒井博久（阪大）

四、新產兒假死ニ及ボス電氣刺戟ノ影響ニ關スル實驗的研究　水田隆之（岡大）

五、新產兒假死ノ藥物療法ニ關スル實驗的研究（第一報）　西村正次（岡大）

六、家兎新產兒ニ於ケル肺「レ」像ト組織學的所見トノ比較觀察ニ就イテ　山本英雄（岡大）

七、Hysterosalpingographie ニ關スル實驗的研究　（勝矢信司 深田幸男）（大阪）

八、骨盤「レントゲン」像ヨリノ分娩豫後判定ニ關スル總括的觀察　山邊顯彥（京大）

九、再ビ余ノ光度計ニヨル尿中Histidin定量法トKapeller-Adler妊娠反應ノ應用ニ就イテ　足高善雄（阪大）

第四部　午後一時——同二時

座長　安藤畫一君

一、剔出蛙心ニ及ボス「レ」線ノ影響　鰺坂貞美（京大）

二、硬「レ」線脾臟照射ノ子宮出血止血機轉ニ關スル研究（第五回報告）硬「レ」線脾臟照射ノ家兎子宮運動ニ及ボス影響　池上孟雄（大阪北野病院）

三、惡性腫瘍「レ」線治療時ニ於ケル血管ノ態度ニ就イテ（「レ」線寫眞供覽）　山本正（京大）

四、惡性腫瘍ノ「レ」線完全治療時ニ於ケル轉移、特ニ骨轉移ニ就イテ　山本正（京大）

五、肉腫白鼠全身照射ニ於ケル諸種光線ノ影響ニ就イテ　江崎四十男（京大）

六、組織培養法ニヨル放射綿療法ノ作用機轉ニ關スル研究　小南吉男（京大）

七、子宮癌放線療法後ニ現ハレシ血栓症狀ニ就イテ　本多操（倉敷）

八、短波長電波ノ殺菌作用ニ關スル實驗　中島富雄（京府大）

九、幼若植物ノ發育ニ及ボス短波長照射ノ影響　代田四郎（京府大）

十、短波長電波ノ組織深部到達性ニ關ス實驗　（志多半三郎 武田龍馬）（京府大）

第五部（午後二時——同三時）

座長　吉松信實君

一、「クロロホルム」麻醉ガ腦脊髓液ノ二三物理化學的性狀ニ及ボス影響　中嶋佐（京府大）

二、尿中「コレステリン」ノ排泄ニ就イテ　岡本吉美（阪大）

三、腫瘍家兎ノ消化運動ニ關スル實驗的研究　矢島壽（岡大）

四、腦下垂體後葉「ホルモン」（アトニン）ノ家兎肉腫組織呼吸並ニ解糖作用ニ及ボス影響ノ實驗的研究　成松清品（京大）

五、子宮癌患者ノ新陳代謝研究　藤田安國（京大）

六、「カルシウム」代謝變化ノ惡性腫瘍ニ及ボス影響ニ就イテ　水野潤二（京大）

七、人工癌發生經過中ニ於ケル「カルシウム」代謝ノ變化ニ就イテ　水野潤二（京大）

八、家兎肉腫組織ノPH並ニ惡性腫瘍靜脈PHノ變化ニ就イテ　影山壽男（京大）

九、婦人科的疾患特ニ惡性並ニ良性腫瘍患者ニ於ケル血中酸化並ニ還元「グルタチオン」量ノ消長ニ就イテ　藤本修（阪大）

第六部　午後三時——同四時

座長　岡林秀一君

一、心臟及ビ血管系ニ及ボス所謂惡性腫瘍毒素ノ作用　岡本さかき（京大）

二、惡性腫瘍「エキス」ノ滑平筋臟器ニ及ボス影響　岡本さかき（京大）

三、結核及ビ結核菌毒素ノ惡性腫瘍ニ及ボス影響ニ就イテ　今村四郎（京大）

四、惡性腫瘍體外培養ニ於ケル培地液化現象ニ及ボス異種血情ノ影響ニ就イテ　田岡純次郎（京大）

五、局所鬱血ノ家兎肉腫發育ニ及ボス影響ニ就イテ　東清（京大）

六、局所鬱血ノ家兎「テール」癌發生ニ及ボス影響ニ就イテ　東　清（京大）

七、諸種金屬「コロイド」並ニ其レ等鹽類投與ニ依ル肉腫家兎諸臓器並ニ腫瘍内分布ニ就イテ（第一報鐵劑）　吉良貞敏（京大）

八、諸種金屬「コロイド」ノ惡性腫瘍組織酵素作用ニ及ボス影響（第一報）　富井秀夫（京大）

九、惡性腫瘍轉移ニ關スル知見補遺淋巴腺障碍時ニ於ケル惡性腫瘍轉移　岡本さかき（京大）

十、O-Amido-Azo-toluol ノ成鷄肝臓組織代謝ニ及ボス影響ニ就イテ　青地重夫（京大）

特別講演（四時三十分）

輻射線ト其ノ性質

理學部教授　理學博士　木村正路君

卵胞（濾胞）ホルモン

東京帝國大學教授　農學博士　島村虎猪氏創製

ギナンドール

廿五萬單位　新發賣

價格一部改正

正改格價は線横實發百ゴ字太中長

今回更に二十五萬單位を最も低廉に發賣し臨牀家の要望に副ふ事とし又從來の物は包装の大量入を新に發賣して最も經濟的に供し同時に向一部は價格の引下をなせり。

倍爲の御愛顧を。

ギナンドール種類及價格			
注射水液	100單位	5管	1.10
〃	〃	10管	1.80
〃	〃	30管	5.50
〃	〃	50管	7.50
	500單位	5管	2.70
〃	〃	10管	3.60
〃	〃	30管	14.00
〃	〃	50管	15.00
〃 油液	1萬單位	5管	2.90
〃	〃	10管	4.70
〃	〃	50管	22.00
	5萬單位	3管	5.00
		10管	16.00
	25萬單位	1管	7.00
膏　剤	（1瓦1000單位）	25瓦	3.60
〃	〃	100瓦	12.80
錠	（1錠500單位）	50錠	3.75
		200錠	13.60

發賣元　東京市日本橋區本町　友田合資會社

Gy-23

國產にて而も其効力外國品に優り、價格約五なり。

腦下垂體後葉製劑 アトニン

アトニンは其一cc中にフェダトリン一〇單位を正確に含有す。

產婦人科　微弱陣痛、他殺性子宮出血、分娩後の出血、分娩の促進、麻痺性鼓腸の排氣、乳汁分泌不全等。

內　科　虛脫、中毒等の血壓下降、心臟衰弱、脳脊髓麻痺性鼓脹、膀胱麻痺による尿閉。

外　科　手術後の脳脊髓或は膀胱麻痺。

（價　格）　0.5cc管（三回分）　0.45円　0.5cc管（三回分）　0.40円　0.5cc管（10回分）
1.0cc管（三回分）　1.05円　1.0cc管（三回分）　1.00円　1.0cc管（10回分）

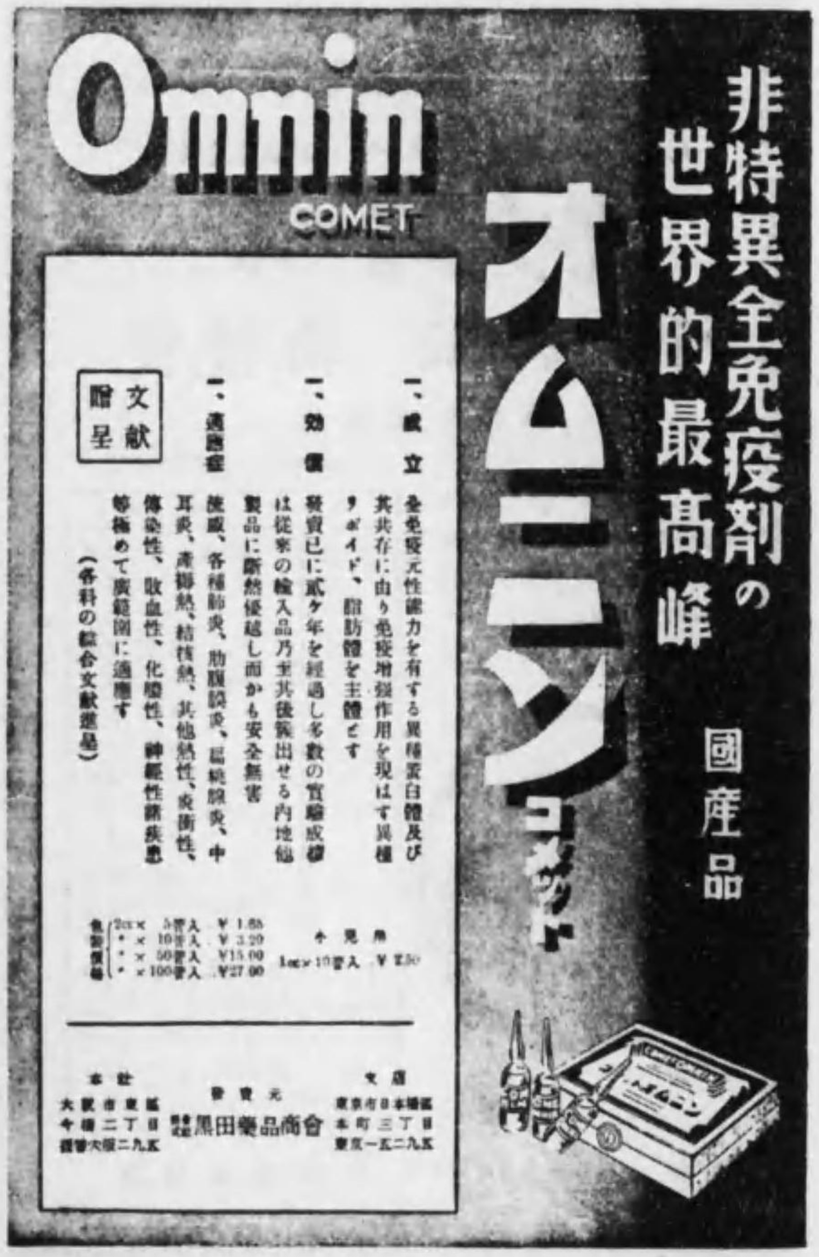
文獻進呈

發賣元　東京代理店　製造元

大阪市道修町
神戸市本町
川崎市入江崎

試驗社區醫學研究所
小西醫學研究所
長崎市
神戸市
兵庫縣
衛生研究所
店

·34-7(0)



陣痛微弱に

國産

三共製腦下垂體後葉ホルモン製劑

ヒンテリン

HINTERIN

J.P.中Vogelin標準法製品5.0瓦に相當する強壮効力（10國際單位）を含有す

0.5瓦	3管	¥1.20	1.0瓦	3管	¥2.10
〃	10管	¥3.50	〃	10管	¥6.70
〃	30管	¥9.00	〃	30管	¥18.00

世界的標準品

腦下垂體後葉ホルモン製劑

ピツイトリン

PITUITRIN（P.D&CO.,）

0.5瓦 3管入 ¥3.50
1.0瓦 3管入 ¥4.80

ピツイトリン及**ヒンテリン**は共に神經性緊張の外、手術後の腸管麻痺並に陣痛微弱に、喀血症、尿崩症、膽石症及び氣管枝喘息に推奨せらる……

硫規製劑

ヂンツール

ZINTUL

腦下垂體後葉ホルモン劑と異なり、その作用緩和にして、時期の如何に不拘、陣痛微弱に應用し得る利點を有す。（實驗內注射）

（5.0瓦 5管入 ¥4.75）

三 SANKYO 共

東京・室町 三共株式會社

腫浮・癇子

毒中鉛

醫學博士 磐瀨雄一先生推奨
醫學博士 佐伯誠一先生實驗推奨

マグネゾール

硫酸マグネシウムの鎮痙作用殊に子癇療法に於ける治驗報告は既に定評あり、又經腹及筋肉呼吸に於ても効果を認められ、尚ほ小兒鉛中毒による痙攣に用ゐて噴々の好評を得つゝあり。

マグネゾールは斯界に於ける感謝標識を有せらるゝ諸家より特に推薦の栄を得たる硫酸マグネシウム、デキストローゼ溶液なり。

適應症	價格
子癇（痙攣、昏睡、高血壓子癇）、尿毒症、經腹及產婦產後、チタニス、其他一般腦內壓擴張に小兒鉛中毒痙攣等	二〇.〇〇瓦 六管入 金參圓參拾錢 二〇.〇〇瓦 六管入 金參圓八拾錢 二〇.〇〇瓦 一〇管入 金壹圓五拾錢

發賣元 株式會社 鳥居商店 東京市日本橋區本町三

關西代理店 田邊五兵衛商店 大阪市東區道修町

（文獻贈呈）

MAGNESOL

醫學

各醫學、新聞、雜誌の廣告
取次並に廣告に關する
一切の御用命に應じます

製文意豫計
版案匠算畫

醫學
新聞、雜誌、廣告代理業
福田商店廣告部
大阪市東區京橋三丁目七
電話 東七三三四番

全國主要
醫學、新聞、雜誌
七拾種收載
廣告統計表
發行

陣痛催進並子宮止血劑

ピツグラシン

PITUGLASIN

國產腦下垂體後葉製劑

子宮收縮ホルモン純粹分離完成

ピツグラシンは其1cc中確實に10單位即ち腦下垂體後葉家の五倍を正確に含有しこを皮下或は筋肉内に注射する時は子宮收縮促進作用に子宮止血作用を呈す

驚嘆すべき特長

1. 本劑の子宮收縮作用は極めて迅速にして注射後五分を出でずして確實に奏効す
2. 本劑の子宮收縮作用は麥角製劑の如く激烈ならず寧ろ遙かに短時間なり故に本劑は反復して略々任意の時間作用せしめることを得
3. 全後葉製劑使用の時は「ワゾプレツシン」を多量に混在するが故に血壓上昇・血管收縮等の望ましからざる副作用を呈すれども本劑は其分離に於て特に注意せるを以て之が應用に當つては之等の禁忌を些も顧慮する要なし

〔適應症〕

本劑は陣痛催進作用を主とし兼て後期子宮出血の豫防に効果あり但し後者の場合は麥角製劑との併用を合理的にす　即ち本劑最適の場合は分娩第二期・娩出期陣痛微弱の際羊膜破裂し頸管擴張充分となる時期を選ぶこと最も安全なり

—包　裝—

注射液 0.5cc	3管入	3.00
〃	10管入	9.50
〃	30管入	25.50

株式會社
藤澤友吉商店
大阪東區道修町　東京日本橋區本町　京城明治町小門町

完成せる國產
新泡沫體療法劑
ハクラン
頸管並腟內挿入用
HAKULAN

頸管加答兒、子宮內膜炎、腟部糜爛、腟炎
少女腟炎に賞用さる
殺菌、消炎、止血、收斂、清淨
特許
防濕、保鮮
見本文獻欣呈
30桿入
¥1.80
發賣元
白蘭莊
大阪市西成區姫松通一丁目
電話天下茶屋三七一五番 電報宛名略號〔ハクランソ〕
振替口座大阪五六一五三番
113

強力女性發情ホルモン
ペラニン

京大產婦人科教室 醫學博士 小榮次郎氏檢定

主なる適應症

1 衰退せる人體諸機關賦活作用＝勢力減退。早老等
2 月經障碍＝子宮發育不全による月經離症、月經寡少
3 更年期無月經或は不姙症
4 去乳期障碍＝更年期に於ける諸症狀、早期月經休止
5 感乳汁分泌障碍＝乳腺の萎縮に依る乳汁分泌障碍
熱障碍＝不感症に對する發情作用

水溶性注射用（皮下・靜脈）油溶性注射用（筋肉內）
內服用錠劑の三種あり症狀により適宜使用す。

新發賣（高單位）一萬單位、五萬單位、二十五萬單位

發賣元
株式會社 塩野義商店
本店大阪市東區道修町三丁目
支店東京市日本橋區二丁目

癌腫治療劑

ピーオーユー

1/2 値下げ

日・英・獨
加・瑞・特許

P-O-U Hormon.

今般製造裝置の擴大と低廉なる新原料の發見に基き左記の通り1/2定價に値下げ斷行、從來の價格不廉の批難を一掃することを得たり。

注	五管	三・〇〇	錠	二五錠	五・五〇
	一〇管	五・五〇		五〇錠	一〇・〇〇
	五〇管	二五・〇〇		一〇〇錠	一八・五〇
來	一瓦	二・〇〇			
	五瓦	九・〇〇			
	一〇瓦	一七・五〇			

適應症

① 子宮癌。胃癌 等の一般癌腫
② 子宮頸部糜爛
③ 輸卵管炎

實驗希望者には見本進呈、記名御申込を乞ふ

日本新藥株式會社

抄錄

伊藤正道（岡大）

第一部

一、人子宮癌ノ象形複成模型

子宮癌ノ健康組織ニ蔓延スル狀態ヲ立體的ニ觀察セントシ、子宮頸部癌ノ子宮體部ニ移行蔓延セントスル部分ノ象形複成模型ヲ作製セリ。

子宮癌胞巢ノ健康子宮體部ニ移行スル部分ノ狀ハ不規則、凹凸アルヲ特徵トシ、大小丘陵ノ起伏出沒スルニ似タリ。平等ナル境界ヲ示サズ。良性腫瘍ノ一タル子宮筋腫ニ見ル如ク擴大性發育ヲナシ、平等ナル凸面ヲ以ツテ健康組織ニ移行スル狀ト比較スル時ハ其ノ發育端ニ於ケル趣ハ甚シキ差ヲ示スモノトイフベシ。

二、余等ノ考察セル三用「キモグラフィオン」（血壓、子宮收縮運動、膀胱壓）裝置ニ就キテ

産婦人科領域ニ於ケル必需藥品タル腦下垂體後葉製劑ノ效力並ビニ治療的價値ヲ研索スルニ當リテハ、子宮筋收縮運動ノ外ニ、血壓、膀胱、腎臟機能等ニ及ボス影響ヲモ考慮ニ入ルヽヲ要ス。然シ乍ラ從來諸家ノ行ヒタル方法ハ、被檢臟器每ニ動物ヲ取代フルヲ常トセシガ故ニ、實驗條件ノ均等ヲ缺キ、從ツテ實驗成績ノ確實ヲ期シ難キ憾ミナシトセズ。

依ツテ余等ハ、斯ノ如キ實驗ノ目的ニハ其ノ實驗條件ヲ均一ナラシムルヲ理想トナスノ見地ヨリ、雌性家兎ノ子宮筋收縮運動、血壓、膀胱壓等ヲ同時ニ測定シ得ル方法ヲ考案セシガ故ニ、茲ニソノ裝置ト利點ニ就キ報告セント欲ス。

三、本邦人膣壁ニ分布スル末梢神經ノ組織學的研究

藤森速水（大阪北野病院）
吉村正太
尾崎正保（京大）

余ハ數年前ヨリ末梢神經ノ染色ヲ志シ、既ニ人雌性性器ニ化布スル末梢神經ナル題下ニ其ノ成績ノ一部ヲ發表セリ。今回ハ其ノ續報トシテ本邦人膣壁ニ就イテ報告セントス。染色方法ハ屢々學會並ビニ誌上ニテ發表セルヲ以ツテ略シ、コヽニハ所見ノ大要ヲ總括シテ述ブ。

一、本邦人膣壁ニハ組織學的ニ明瞭ニ神經分布ヲ證明セリ。

一、膣筋肉層ニハ多數ノ神經纖維並ビニ纖維束ヲ認メ、其ノ走向、迂曲度ハ全ク千差萬別ニシテ、婦女ノ縮毛ニ相似タリ。神經纖維束ハ走行中順次分散シテ其ノ經ヲ小トナシ、遂ニ單獨ナル神經纖維トナリテ走ル。分散方法モ種々ニシテ、束ノ經モ亦大小種々ナリ。

一、髓鞘染色ヲ施スニ有髓、無髓ノ二種ヲ區別シ得、束內含有比ハ一定セズ。個々ノ神經纖維ノ經モ大小種々ナルモ、ホヾ三種ニ分チ得、卽無髓性一種、ト大、小二種ノ有髓性纖維ナリ。

一、粘膜下層ニモ神經纖維ヲ認ムルモ、膜粘上皮細胞ニ直接入込ムガ如キ神經成分ヲ證明シ得ズ。

一、神經纖維ノ終末ハ遊離カ小點狀ナリ。但シ大經有髓性纖維ハ小圓球、又ハ長頸瓶狀ヲ呈ス。

一、膣筋肉、粘膜層ニハ特殊知覺終末裝置並ビニ神經節細胞ヲ證明スル事ヲ得ズ。

一、膣周圍層ニハ神經纖維、束ノ外神經節細胞ヲ認ム。

一、分布密度ハホヾ平等ナレド、强ヒテ云ヘバ中部ハ上、下部ヨリ粗ニ、壁自身ニテハ側方ハ前後ヨリ豐富ナリ。

一、膣壁分布血管ニハ明瞭ニ神經支配ヲ證シ得タリ。

一、斯ル神經成分ハ胎齡廿七週ノ胎兒ヨリ七十四歲ノ老人子宮ニ至ル迄證明シ得、勿論膣壁ノ發育ニ從ヒ神經成分モ亦發育ヲ遂ゲ、老衰期ニ入リテハ又徐々ニ萎縮ニ傾ク。

一、妊娠、分娩、性週期ニ依リテモ本質的ノ變化、卽神經成分ノ新生、增殖、退化、變性等ヲ繰返スガ如キ所見ニ接セズ。

四、雌性家兎ニ於ケル動脈硬變ノ實驗的研究

片平年秋（大鐵産婦人科）

「ラノリン」飼養ニヨル家兎ノ動脈硬變ニ及ボス持續性人工黄體發生ノ影響ヲ檢シ、次ギノ如キ結果ヲ得タリ。

幼弱家兎及ビ成熟家兎ヲ「ラノリン」ヲ以ッテ飼養シッヽ、持續性ニ人工黄體ヲ發生セシムルナラバ、單ニ「ラノリン」ヲ以ッテ飼養スル場合ニ比シ、其ノ大動脈ニ來ル「アテローム」變性ハ肉眼的ニモ顯微鏡的ニモ强度ニ來ル。實驗長期ニ亙ル程、增强セラルル程度高シ。

尙「ラノリン」飼養ニヨル家兎ノ動脈硬變ニ及ボス去勢ノ影響ヲ檢シ、次ギノ如キ結果ヲ得タリ。幼弱家兎ニ於イテ、去勢後「ラノリン」ヲ以ッテ飼養スルナラバ、單ニ「ラノリン」飼養ノ場合ヨリモ、其ノ大動脈ニ來ル「アテローム」變性ハ肉眼的ニモ顯微鏡的ニモ弱シ。實驗長期ニ亙ラバ兩者ノ「アテローム」變性ノ差ハ小トナル。然ルニ、成熟家兎ニ於イテ、去勢後「ラノリン」ヲ以ッテ飼養スルナラバ、單ニ「ラノリン」飼養ノ場合ヨリモ其ノ大動脈ニ來ル「アテローム」變性ハ肉眼的ニモ顯微鏡的ニモ强度ニ來ル。此ノ場合モ實驗長期ニ亙ラバ兩者ノ「アテローム」變性ノ差ハ漸次接近シテ小トナル。

其ノ原因ニ關シテハ、第一ノ場合ニハ、持續性人工黄體發生ニヨル「ヒペルコレステリネミー」及ビ血壓上昇ガ影響シ、第二ノ場合就中幼弱家兎去勢ノ場合ニハ、胸腺殘存ニヨル血壓下降作用ガ影響シ、成熟家兎去勢ノ場合ニハ、去勢ノタメニ來ル一時的「ヒペルコレステリネミー」及ビ血壓上昇ガ影響スルニヨルモノナラン。

五、「アデノミオージス」ノ實驗的研究（第一報）

萩野延次郎（大阪市立市民病院）

「アデノミオージス」、所謂「エンドメトリオーム」ナル腫瘍ハ比較的稀ナルニモ拘ラズ近世ニ於ケル婦人科病理學的ニ、或ハ婦人科臨床的ニ興味アル研究ノ對象トナリ、該腫瘍ノ構造、機能及ビ其ノ特有ナル經過、其ノ他ノ點ニ關シテ從來ノ腫瘍ノ領域ニ特有ノ地歩ヲ占ムルニ到レリ。

而シテ該腫瘍ノ成因、本態ニ關シテ從來(一) Recklinghausen ノ原腎說(Urnierentheorie)、(二) R. Meyer ノ漿膜上皮說 (Seroepithelialtheorie)、(三) Baltzer, Seyffert ノ die Theorie der apokrinen Drüsen (四) Sampson ノ移植說 (Implantationstheorie)、(五) Halban ノ淋巴管轉移說 (die Verbreitung des Implantates auf Lymphogenem Wege) 等ノ諸說アルモ何レノ說モ凡ベテノ場合ヲ說明シ得ルニ到ラズ。

然レ共該腫瘍ノ發現或ハ其ノ活動性ニ關シテ、又或ル場合ニハ其ノ成因ニ迄溯リテ之レガ或ル種ノ內分泌ノ機能ト特定ノ關係ニアルナラント思惟セラレ得ル點ニ就キテハ、已ニ從來ヨリ屢々稱ヘラレシ處ナルモ、此ノ點ニ關シテハ未ダニ不鮮明ノ處尠シトセズ、系統的ニ深ク究明セラレタルヲ見ズ。茲ニ余ハ右ノ點ニ就キ些カ釋明ノ一端ニ資セントシテ以下次ノ實驗的研究ニ着手セリ。

一、諸種性「ホルモン」トノ關係ニ就キテ

A. （諸種性ホルモンノ組織ノ發育ニ及ボス影響ニ就キテ）

右ノ内卵巣ノ内分泌機能ノ組織ノ發育トノ關係ニ就キテハ、余ノ最モ知ラント欲スル處ナリ。故ニ卵巣ノ機能ヲ二ツニ分ケテ觀察セリ。

（イ）卵胞「ホルモン」ノ體外培養セル家兎子宮組織ノ發育ニ及ボス影響ニ就キテ

（ロ）黄體「ホルモン」ノ體外培養セル家兎子宮組織ノ發育ニ及ボス影響ニ就キテ

「實驗材料及ビ實驗方法」…培養組織ハ家兎新産兒子宮組織、培養基ハ家兎「ヘパリン」血漿及ビ家兎脾臓越幾斯、可檢「ホルモン」材料ハ凡ベテ製品ヲ用キズ、直接屠場ヨリ持チ來リシ卵巣ヨリ次ノ方法ノ如ク夫々製セリ。卽卵胞「ホルモン」ハ卵胞水其ノ儘、黄體「ホルモン」ノ場合ハ越幾斯其ノ儘及ビ越幾斯ヲ更ニ「シャムベラン」ノ濾過器ニテ濾過セルモノヲ用キタリ。培養器ハ被覆硝子法及罎法ノ兩者ヲ併用ス。

「實驗成績」…卵胞「ホルモン」及ビ黄體「ホルモン」共ニ家兎新産兒子宮組織ニ對シテ發育促進作用アリ。前者卵胞「ホルモン」ニ於イテハ發育促進作用ハ遙カニ強ク、後者黄體「ホルモン」ニ於イテハ發育促進作用ハ比較的輕微ニシテ、而カモ一定稀釋度ニ於イテ原液ヨリモ却ッテ發育促進作用ノ勝レルヲ認ム。

六、卵巣及ビ腦下垂體前葉機能ノ麻醉ニ及ボス影響ニ就イテノ實驗的研究（其ノ一）

佐々木舜次（京大）

近時内分泌學ノ進歩ニ伴ヒ、幾多複雜ナル生活現象ガ之レニヨリテ闡明セラレタリ。麻醉ノ方面ニ於イテモ内

分泌トノ關係ニ就イテ業績少ナカラズ。殊ニ麻醉死ノ探究ニ際シテ、ソノ原因ヲ内分泌ノ關係ニ求メントセシモノ多ク、學者ニヨリテ既ニ種々ナル說ヲナスト雖モ今日尙歸一スル所ヲ知ラズ。

卵巣及ビ腦下垂體前葉ガ相互ニ密接不離ノ關係ニアリ、且婦人ノ生活機能ニ對シ重大ナル役割ヲ演ズルハ今日周知ノ事實ナリ。且吾人ガ婦人科的手術ニ際シテ、麻醉ガ之レ等重要ナル内分泌機能ニヨリ影響サルヽハ想像ニ難カラザルモ、此ノ問題ニ關シテ、未ダ系統的研究アルヲ知ラズ、因ッテ本研究ニ志シタリ。

余ハ先ヅ實驗上簡便正確ナル恒溫式麻醉器ヲ考案シ、藥品ハ主トシテ脂肪屬麻醉藥ノ代表タル「クロ、ホルム」ヲ使用シ、豫備實驗ニ於イテ、家兎ニ類同本器ヲ使用シ、麻醉現象ノ時間的經過ニ變動頗ル僅微ナルヲ確メ、先ヅ家兎ニ於イテ一群ハ去勢シ、一群ハ卵胞「ホルモン」ナル「ベラニン」ヲ注射シ、ソノ前後ニ於イテ麻醉過程ノ時間的關係及ビ呼吸、心動ノ變化等ニ就キ比較考究シ、次イデ Nicloux 氏法ニヨリテ、同一時期、卽瞳孔對光反應消失ノ瞬間ニ於ケル血中ノ「クロ、ホルム」ノ濃度ニ就イテ研索シタリ。次ギニ幼弱雌性家兎及ビ成熟雌性家兎ニ就イテモ同樣ナル方法ヲ用ヒテ比較セリ。又「ラッテ」ニ於イテ、ソノ性週期ニヨル麻醉ノ時間的關係ノ差異ヲモ比較考究シタリ。

更ニ卵巣ト密接ナル關係ニアル腦下垂體前葉機能トノ關係ヲ知ラント欲シ、雌性白色成熟家兎ヲ用ヒ、一群ニ於イテハ、ソノ腦下垂體部ニ「レントゲン」線ヲ照射シテ、之レヲ破壞シ、一群ニ於イテハ前葉「ホルモン」、主トシテ「プレホルモン」ヲ注射シテ、前同樣操作前後ニ於ケル麻醉過程ノ時間的關係ノ差異ヲ比較考察シ、併セテ血中ノ「クロ、ホルム」濃度ニ就イテ研索シタリ。

七、異種蛋白非經口的投與ノ造血臓器、内分泌臓器及ビ實質性臓器ニ及ボス影響ニ就イテ（概要）

小南吉男
岡本さかき（京大）

家兎ヲ用ヒ、異種蛋白トシテ雞胎粥ヲ其ノ腹腔内ニ注射シ、其ノ腦下垂體、甲狀腺、胸腺、心臓、淋巴腺、脾臓、肝臓、腎臓副腎及睾丸ノ病理組織學的所見ヲ檢セリ。然ル時ハ斃死セルモノ及ビ飼養二ヶ月後屠殺セルモノ、間ニ於イテ著明ナル相異ヲ見タリ。且斃死群ハ斃死群間ニ於イテ、屠殺群ハ屠殺群間ニ於イテ各々其ノ群ニ從ツテ全ク相似タル所見ヲ呈シタリ。之レ等ノ成績ニ於イテ最モ興味アルハ網狀織内皮細胞系統ノ態度ニシテ、屠殺群ニテハ著明ナル增殖ヲ見ルニ反シ、斃死群ニテハ左程著明ナル增殖ハ之レヲ見ズ。コハ所謂蛋白體療法ノ作用機轉ニ關シ何事カヲ暗示スルガ如ク感ゼラル。

又内分泌臓器ノ變化ハ斃死群及ビ屠殺群間ニ於イテ互ニ全ク相反シタル所見ヲ呈ス。而シテカヽル屠殺群ニ於ケル所見ハ異種蛋白注射ニ際スル防禦機能ノ發現ニシテ、斃死群ノ所見ハ防禦機能ヲ以ッテ反應スル事能ハズ、遂ニ異種蛋白ノ中毒ニヨッテ内分泌機能ノ失調ヲ來シタルモノナルベシト信ゼント欲ス。

而シテ予等ノ得タル所見ニ於イテ異種蛋白非經口的投與ノ内分泌臓器、造血臓器及ビ實質性臓器ニ及ボス影響ハ、妊娠及ビ惡性腫瘍ノ之レ等臓器ニ及ボス影響ト甚ダシク類似セルヲ知レリ。コハ間接的ニ妊娠、惡性腫瘍及ビ異種蛋白ハ相互ニ關係近キ事、更ニ妊娠毒素及ビ惡性腫瘍毒素ハ異種蛋白類似ノモノナル事ヲ示スニハ非ザル

カ。

八、貧血恢復ノ實驗的研究（第二報）

產褥並ニ腦下垂體前葉「ホルモン」及ビ卵胞「ホルモン」投與ガ實驗的貧血ノ恢復ニ及ボス影響

合阪俊二郎（大高醫）

演者ハ曩ニ第二十九回近畿婦人科學會ニ於イテ、家兎ニ於ケル瀉血ニヨル實驗的貧血ノ恢復狀態ヲ檢セシニ、妊娠末期ノ妊孕家兎及ビ甲狀腺劑投與家兎ハ對照家兎ニ比シ其ノ恢復速カニシテ、甲狀腺卵巢副除家兎ハ遲延スルヲ認メ、卵胞「ホルモン」少量投與ハ恢復ニ何等變化ナキヲ報告セリ。今回ハ更ニ卵胞「ホルモン」ノ單位高キモノヲ用ヒテ再ビ同樣ノ實驗ヲ行ヒシニ、明ニ其ノ恢復ノ促進セラルヽヲ認メ、次ギニ腦下垂體前葉「ホルモン」ヲ投與セシ家兎ニ於イテハ對照家兎ヨリ亦其ノ恢復速ナルヲ認メタリ。產褥第一日目ニ分娩時ニ於イテ既ニ多少ノ失血來セシ家兎ニ對延一%ノ割ニ瀉血シ、其ノ恢復ヲ見タルニ大多數ハ產褥五日目前後ニ於イテ恢復ノ兆現ハレ、爾後赤血球血色素量、白血球數等ノ增加ヲ認メ、少數例ニ於イテハ逆ニ減少シ、貧血ノ度加ハリ、恢復甚ダシク遲延シ、或ハ斃死スルヲ認メタリ。

九、「アクリヂン」系色素ニ關スル研究

第一回報告　網狀織內被細胞系統機能封鎖後ニ於ケル該色素尿中排泄狀況ニ就イテ

水野一正（大阪北野病院）

輓近治療醫學ノ進歩ト共ニ「アクリヂン」系色素ノ醫學的應用範圍ハ益々擴大サレツヽアリ。之レニ關スル研究尠ナカラズ。余ハ第三十三回日本婦人科學會總會ニ於イテ藤森博士ト共ニ該色素注射後三十分乃至四十八時間迄ノ尿中排泄狀態ニ就キ發表セリ。今回演者ハ網狀織內被細胞系統機能封鎖後ニ於イテ、該色素ノ尿中初發時間並ビニ排泄量ガ如何ニ影響サルヽヤヲ檢セント欲シ、先ヅ該色素ノ定量方法ニ關シ吟味セシニ、從來ノ方法ハ種々ノ點ニ於イテ不正確ナルヲ免レザルヲ知レリ。嘗テ E. Abderhalden ニヨリ「サルヴアルサン」ノ檢出ニ用ヒラレタル「ヂアツオ」反應ヲ多少改良シテ定量ヲ試ミタリ。卽 Benda ハ「トリパフラビン」ノ稀釋鹽酸溶ハ亞硝酸「ソーダ」ヲ以ツテ「ヂアツオ」化シ得ベク紫色ノ液ヲ生ジ、過剩ニ「ニトリット」ヲ加フルモ其ノ色ヲ變ズルコトナク、之レニ尿素ノ結晶ヲ加フレバ一層色調鮮明且持續的トナリ、尙更ニα—「アフチールアミン」ヲ加フレバ紅色トナルト云ヘリ。此ノ反應ハ極メテ鋭敏ニシテ「トリパフラビン」ノ五〇萬倍溶液ニ於イテスラ檢出シ得ルガ故ニ、余ハ斯ノ如キ原理ニ基キテ尿中該色素ノ定量法ヲ考案シ、本實驗ニハ專ラ本法ヲ採用スルコトヽセリ。扨「アクリヂン」系色素ガ果シテ網狀織內被細胞系統ニ貪喰サルヽモノトスレバ、該系統機能封鎖後ニ於ケル尿中排泄ノ初發時間ハ然ラザル場合ノソレニ比シ早期トナル可キナリ。故ニ余ハ「コラルゴール」、墨汁、亞砒酸加墨汁等ヲ以ツテ成熟

家兎ノ該系統ノ機能封鎖ヲ行ヒ、ソノ家兎ニ就キ「アクリヂン」系色素排泄初發時間並ビニ排泄濃度ヲ檢セリ。實驗動物トシテ二瓩內外ノ雌性家兎ヲ選ビ脊臥位トナシ、膀胱正中線ニ縱切開ヲ加ヘ膀胱內輸尿管開口部ヲ露出シ、其レヨリ滴出スル尿ヲ濾過紙ニ浸シ、其ノ時間ヲ記載シ、豫メ作成シ置キタル稀釋鹽酸加亞硝酸「ソーダ」溶液中ニ接觸シ、ソノ「ヂアツオ」反應ヲ呈スルヲ以ツテ初發時間トシ、ソレヨリ順次ニ滴出スル各尿滴ニ就キ「ヂアツオ」反應ノ强サニヨリ排泄セル色素ノ濃度ヲ窺知セント試ミ、聊カ興味アル結果ヲ得タルヲ以ツテ茲ニ報告セントス。

十、「アクリヂン」系色素ニ關スル研究

第二回報告　「アクリヂン」系色素劑靜脈內注射ニヨル血壓ノ變化ニ就イテ

水野一正（大阪北野病院）

E. Lenz ニヨレバ「アクリヂン」系色素ハ他ノ「アニリン」色素ニ類似シ、溫血動物ニ於イテハ次第ニ進行スル神經中樞麻痺ヲ起シ、次イデ循環器系ノ臟器ニ障碍ヲ及ボスト。茲ニ於イテ演者ハ二瓩五百內外ノ健常雌性家兎ヲ選ビ、觀血的血壓測定法ヲ以ツテ「アクリヂン」系色素連續注射ニヨル血壓曲線ヲ時間的ニ「キモグラフイオン」ニ描寫セシメタルニ、最初血壓低下著シカラズ注射回數ノ重ナルニ從ヒ、血壓低下大ニシテ且其ノ恢復甚シク遲延サルヽヲ見タリ。其ノ原因、其ノ他ニ關シ述ブル所アラントス。

十一、「アクリヂン」系色素ニ關スル研究

第三回報告　「アクリヂン」系色素劑靜脈內注射ニヨル血液像並ニ赤血球抵抗ノ變化ニ就イテ

水野一正（大阪北野病院）

Browning, Bohland 等ニヨレバ「アクリヂン」系色素注射後ニハ赤血球ノ減少、白血球ノ增多ヲ來スト云ヒ、Lenz モ亦海猪及ビ家兎ニ就キ白血球增多ヲ來スコトヲ報ゼリ。其ノ後該色素注射ニヨル血液ノ形態學的變化ニ就キテハ、追試者續出シタレドモ網狀赤血球及ビ赤血球抵抗ニ就イテ檢索ヲ試ミタルモノ、余ノ寡聞未ダ之レ有ルヲ聞カズ。

Schultz u. Scharlton ハ諸種疾病ニ於イテ網狀赤血球ノ增減ハ、赤血球抵抗ニ特種ノ影響ヲ及ボサズトナシ、Schustroff ハ動物ニ溶血毒ヲ注射シテ幼弱赤血球ノ滲透抵抗ハ却ッテ老弱赤血球ノ夫レニ及バズト高唱セリ。Leuret, Meulengracht ニヨレバ溶血性黃疸ノ際ニ、多數出現スル網狀赤血球ハ抵抗減弱シ、而モ抵抗間隔擴大スト稱セリ。演者ハ「アクリヂン」系色素大量注射時及ビ少量注射時ニ於ケル血液形態學的變化、殊ニ網赤ノ消長ニツキ檢索ヲ行ヒ、更ニ赤血球抵抗ノ變化ヲモ觀察セルガ故ニ其ノ實驗成績ヲモ報告セント欲ス。

第二部

一、性「ホルモン」ト血液凝固作用

石川昂（岡大）

輓近、性「ホルモン」ニ關スル研究ハ頓ニ旺ニシテ、其ノ作用機轉モ種々開明セラレタリト雖、其ノ血液性狀ニ及ボス影響ニ就イテハ諸家ノ業績モ未ダ見ルベキモノナシ。

於茲、余ハ先ヅ其ノ一端トシテ、卵胞、黃體、腦下垂體前葉等ノ諸「ホルモン」ノ家兎血液凝固ニ及ボス影響ニ就イテ實驗セリ。方法ハ各々十日間ニ亙ッテ皮下ニ注射シ、毎日 Bürker 氏法ニ依ッテ血液凝固時間ヲ測定セリ。其ノ結果稍々興味アル結果ヲ得タレバ茲ニ報告セントス。

二、子宮附屬器炎ノ「プレホルモン」療法

山本幹爾（岡大）

子宮附屬器炎患者ニ腦下垂體前葉「ホルモン」本邦製品「プレホルモン」一〇〇 R. E. ヲ一日一回筋肉內ニ注射セルニ亞急性及ビ慢性子宮附屬器炎ニ於イテ注射五回以上及ブ時ニハ「ヂアテルミー」ノ併用有無ニ拘ラズ、急速ニ疼痛ヲ減ジ、且ッ治療期間ヲ短縮ス。尙ホ更年期婦人ニ於イテハ炎症ノ後退ノ外ニ更年期症狀ヲ消失セシメ得タリ。

ソノ作用機轉ニ就イテハ小骨盤腔內充血ノ外ニ「ホルモン」特異作用ヲ認メ得ベシ。

三、母體ノ膵臓機能障碍ガ女性胎兒性腺ニ及ボス影響

谷岡只雄（大阪北野病院）

膵臓ハ只單ニ外分泌腺タルノミナラズ、亦動物生存上極メテ重要ナル任務ヲ有スル內分泌腺タルコトハ久數以前ヨリ知ラレタル所ナレドモ、一九二〇年 Banting und Best 氏ニヨリ膵臓「ホルモン」タル「インシュリン」ノ發見セラレシ以來、特ニ膵臓內分泌ト他種內分泌腺間ノ相互關係ヲ研究スルモノ多ク、我ガ婦人科領域ニ於イテモ極メテ深キ關係ノ存スルコト明トナリ、從ツテ之レガ實驗報告モ亦漸次其ノ數ヲ增スニ至レリト雖モ、妊娠中其ノ母體ノ膵臓機能ニ障碍ヲ來タセル際、ソノ胎兒ノ性腺ノ受クル影響ニ關シテハ未ダ其ノ報告少キガ如シ。

仍テ余ハ妊娠家兎ニツキ、ソノ妊娠初期ニ膵臓ノ部分的剔出ヲナシタル一群、及ビ同ジク妊娠初期ヨリ連續的ニ「インシュリン」ヲ注射シタル一群ヨリ得タル成熟胎兒ニツキ、其ノ卵巢ノ組織學的檢索ヲナシ、次ギノ成績ヲ得タリ。

（一）、妊娠家兎ノ膵臓機能ヲ亢進セシムルトキハ女性胎兒ノ性腺ハ大サ、重量共ニ對照ニ比シテ增加シ、皮質部及ビ髓質部ハ共ニ影響ヲ受ケ、鬱血若シクハ出血ヲ來タシ、脂肪樣物質ノ出現ヲ見ル。カヽル變化ハ皮質部ニ一層顯著ナリ。

（二）、妊娠家兎ノ膵臓機能ヲ減退セシムルトキハ胎兒及ビ新產仔獸ノ性腺ハ大サニハ大差ナケレドモ、重量ハ對照ニ比シ減少シ、皮質髓質共ニ發育促進ノ像ハ認メラレザルノミナラズ、寧ロ各細胞殊ニ上皮樣細胞原形質內

ニ脂肪樣物質出現顯著ニシテ、爲メニ細胞ハ退行性變性ニ陷レルモノ多數ニ見受ケラル。

四、母體腦下垂體機能障碍ノ女性胎兒性腺ニ及ボス影響

谷岡只雄（大阪北野病院）

腦下垂體ハ、女性々腺ト關係アル諸種內分泌腺中最モ重要ナル地位ヲ占ムルモノニシテ、此ノ器官ノ機能ノ消長ハ、惹イテハ其ノ動物ノ性腺ニ對シ形的並ビニ機能的ニ甚シキ變調ヲ來タスコトハ、既ニ多クノ諸氏ヨリ認メラレタル處ナリ。

然ルニ妊娠セル動物ノ腦下垂體ニ機能異常ヲ惹起セシメタル場合ニ、其ノ胎兒ノ性腺ニ如何ナル影響ヲ及ボスカノ點ニ關シテハ信憑スベキ報告ハ、未ダ餘リ多ク見受ケザルナリ。

仍余ハ、家兎ニ就キ、一群ハ腦下垂體ニ硬「レ」線放射ヲナシ、一二週後ニ交尾セシメテ得タル成熟胎兒ニツキ、又一群ハ妊娠ノ極初期ヨリ腦下垂體前葉「ホルモン」製劑タル「プレホルモン」（小榮博士檢定濟）ヲ連日的ニ注射シ、以ツテ妊娠中腦下垂體ヲ持續的機能亢進ノ狀態ニアラシメタルモノヨリ得タル成熟胎兒ノ卵巢ニツキ、組織學的檢索ヲ試ミ、次ギノ成績ヲ得タリ。

一、妊娠家兎ノ腦下垂體機能減退スルトキハ、其ノ胎兒ノ卵巢ハ大サ、重量共ニ減少シ、皮質部ニ輕度ノ退行性變化ヲ認メ、髓質部ニ著變ナシ。

二、妊娠家兎ノ腦下垂體機能亢進スルトキハ、其ノ胎兒ノ卵巢ハ大サ、重量共ニ增加シ、皮質部ハ擴大シ、充

血ヲ呈シ、脂肪様物質出現シ、髄質部ハ皮質部ノ爲メニ壓縮セラレタルガ如キ像ヲ呈ス。

五、尿中前葉「ホルモン」排泄ニ關スル研究（續報）

男性尿ニ於ケル「ホルモン」量測定

小榮次郎
岡本さかき（京大）
中村敏夫

二八例ノ男性尿ニ就キ腦下垂體前葉ノ卵胞成熟「ホルモン」排泄量ヲ測定セル成績ヲ報告セントス。何レモ卵胞「ホルモン」排泄量ト併行シテ檢索シタルモノニシテ、一乃至三晝夜尿ニ就キテ定量セリ。内三例ハ數日乃至十數日間連續檢査ヲ行ヒタリ（其ノ檢索成績各例ニ就キ表示）。

男子尿中腦下垂體前葉ノ卵胞成熟「ホルモン」量ニハ著シキ個人的差異アリテ、一日量一七RE以下ヨリ四〇〇RE迄ヲ檢出セリ。然レ共大多數（十九例）ハ一〇〇RE以下、就中二〇—四〇REノ間ニアルモノ最モ多シ（十二例）。

年齢トノ間ニハ特別ノ關係ヲ認メ難シ。

連續測定セルモノニ於イテハ多少ノ動搖アルモ、ソノ量略々一定ス。

卵胞「ホルモン」（ベラニン）皮下注射（各一回二五〇ME宛）ニヨリテ前葉「ホルモン」排泄量ハ抑制セラルヽガ如シ。

尿中卵胞「ホルモン」排泄量ト前葉「ホルモン」排泄量トハ逆ノ比例ヲナス事多シ。然レ共又然ラザル場合有リ。

六、腦下垂體前葉性「ホルモン」ノ皮膚塗擦實驗成績

中村身加榮（東京）

腦下垂體前葉性「ホルモン」ヲ中性「コールドクリーム」中ニ混和シ、之レヲ皮膚ニ塗擦シ、人體ニ於イテハ主トシテ月經ニ對シ如何ニ影響スルカヲ、又家兎ニ於イテハ卵巣ニ現ハルル變化ヲ觀察セルヲ以ッテ、其ノ成績ニツキ述ベントス。

七、腦下垂體後葉製劑ニ對スル家兎子宮、血壓及ビ膀胱ノ感受性比較試驗ニ就キテ

藤森速水
吉村正太（大阪北野病院）

腦下垂體後葉製劑ハ最モ屢々陣痛促進ノ目的ニ使用セラルヽモ、開腹手術後ノ腸管麻痺及ビ膀胱麻痺ノ際ニモ、其ノ滑平筋收縮促進ノ目的ニ使用セラルヽハ周知ノ所ナリ。然シ乍ラ、其ノ反面ニ於イテ血壓亢進作用ヲ有シ、近時「エドネクローゼ」性疾患ノ病理ノ闡明セラルヽニ及ビテ、該製劑ノ血壓亢進作用モ亦問題視セラルヽニ到レリ。

余等ハ腦下垂體後葉製劑トシテ「ネオゲブルチン」、其ノ他二、三ノ藥品ヲ用ヒ、是等製劑ニ對スル家兎子宮筋、血壓及ビ膀胱壓ノ感受性ヲ、余等ノ考案セル三用「キモグラフイオン」裝置ヲ以ッテ比較研索セシニ、甚ダ興

味アル成績ヲ得タルガ故ニ、茲ニ報告セント欲ス。

八、家兎子宮筋收縮運動ニ對スル所謂腦下垂體前葉「ホルモン」及ビ黄體「ホルモン」ノ影響並ビニ是等「ホルモン」ノ相互關係ニ就キテ

藤森速水
池上孟雄（大阪北野病院）
吉村正太

陣痛開始ノ問題ニ關スル實驗並ビニ見解ハ多數アレドモ、腦下垂體後葉機能ノ外ニ妊娠黄體ノ消退ヲ以ッテ說明スル者（Knaus、其ノ他）、胎盤說ヲ强調スル者（小榮氏等）アリ。然シ乍ラ妊婦尿中ニ多量ニ排泄セラル、所謂腦下垂體前葉「ホルモン」ガ妊娠並ビニ分娩機轉ニ對シ如何ナル役割リ演ズルヤニ關シテハ未ダ精細ナル報告ニ接セザルナリ。余等ハ今回、家兎子宮ニ對シ腦下垂體後葉製劑トシテ「ネオゲブルチン」又所謂腦下垂體前葉「ホルモン」トシ「プレホルモン」、黄體製劑トシテ「ルテイノール」及ビ「ルテオグランドール」ヲ作用セシメ、是等藥劑ノ相互關係ヲ吟味セシニ、興味アル成績ヲ得タルノミナラズ、陣痛開始ノ問題ニ關シ有力ナル知見ヲ得タルガ故ニ茲ニソノ大要ヲ報告セント欲ス。

九、子宮癌患者體內卵胞「ホルモン」產生ニ關スル考察（續報）

子宮癌腫組織內ノ「ホルモン」量測定

小榮次郎（京大）
岡本さかき

本研究ノ目的ニ就イテハ、昨年春大阪ニ於ケル第三一回本會總會席上ニ於イテ述ベ、而シテ其ノ一考察トシテ癌患者ノ子宮動靜脈內ニ於ケル含有「ホルモン」量ニ就キ報告スル所アリタリ。而シテ吾人ハ此ノ測定ニヨリテ、子宮癌腫組織內ニ於ケル產生ヲ積極的ニ立證スル能ハザリシガ、今回ハ其ノ續報トシテ本教室ニ於イテ剔出セラレタル新鮮ナル癌腫組織中ニ於ケル卵胞「ホルモン」量ヲ檢索シタル成績ヲ報告セントス。

第三部

一、胎兒腎臟ノ組織學的研究（病理的方面）

津田信吉（京大）

妊娠動物ニ諸種ノ毒物ヲ注射シテ腎臟炎ヲ發生セシムル時ハ、胎兒ノ腎ニ炎症性變化ヲ認ムル事ヲ屢ニ報告セルガ、更ニ人體ニ於イテ妊娠腎等ノ母體腎疾患ニ際シテ胎兒泌尿器ニ何等カノ病變ヲ認ムルヤ否ヤヲ注意シ、其ノ後我教室ニ於イテ剖檢ヲ行ハレタル胎兒ニ就イテソノ剖檢所見殊ニソノ腎臟ノ組織學的檢索ヲ行ヒタリ。卽妊娠腎等ノ母體腎疾患ヲ有スル胎兒或ハ新產兒腎臟ニ就イテ「ヘマトキシリン・エオジン」染色、「ズダン」Ⅲ染色ヲ行ヒテ檢索セル結果ハ多數ノ例ニ於イテ病變ヲ認メタリ。卽多數ニ於イテ出血並ニ充血殊ニ皮質ト髓質トノ境界ニ於イテ、小血管ノ著シク擴張セルモノヲ認メタリ。又細尿管腔ノ狹小或ハ閉塞ヲ認メタリ。カヽル變化ハ母體

ニ腎疾患ヲ有セザルモノニアリテモ時ニ認ムル事アレドモ、殊ニ重症ノ母體腎疾患ヲ有スルモノニ著シ。

二、臍帶血液瓦斯ノ研究

野口昌信（京大）

一、全血ニ對スル血球ノ容積(%)
二、血球、血漿間ノ瓦斯(O_2、CO_2)ノ配分狀態
三、酸素容量及ビ酸素飽和度

分娩直後ノ新產兒ニ就キテ、臍帶切斷前ニ各々臍帶動、靜脈血ヲ採取シ、コレノ血球、血漿間ノ酸素及ビ炭酸瓦斯ノ配分狀態及ビ酸素容量、酸素飽和度ヲ測定シ、又コノ研究上必要ナル全血中ニ於ケル血球ノ容積ヲ測定シ、之レ等ノ臍帶動、靜脈血ニ於ケル差異、及ビ特ニ正常新產兒ト假死新產兒トノ間ニ於ケル變化ヲ檢討シ、新產兒假死ノ研究ニ資セントシ、又從來ノ成人ニ於ケル成績ト比較シテ、新產兒血液瓦斯ノ狀態ノ特質ヲ知ラントセリ。血液瓦斯ノ測定ニハ van Slyke 測壓式血液瓦斯分析裝置ヲ改良セル微量血液瓦斯測定裝置(齋藤)ニヨリ、全血中ノ血球容積測定ハ Haematcrit 法(廣田變法)ニヨッテ行フ。斯クシテ得タル成績ニ就キテ報告セントス。

三、妊娠「ネフロパチー」ノ臨牀病理ニ關スル補遺(第五回報告)

筒井博久（阪大）

妊娠「ネフロパチー」屍體ニ於ケル心筋ノ病理組織學的變化ニ就イテ

妊娠「ネフロパチー」ノ心臟病理ハ比較的閑却セラレ、子癇ニ關シテハ Schmerl, Dienst, Möller 等ノ研究アルモ他ノ「ネフロパチー」ニ於イテハ眞ニ寥々タリ。余ハ曩ニ第三十三回日本婦人科學會總會及ビ昨秋靜岡ニ於ケル本會ニ於イテ本研究ノ一端ヲ述ベ、昨年十月「グレンツゲビート」誌上ニ妊娠「ネフロパチー」患者ニ於ケル急性心臟衰弱ト心筋變性ノ關係ニ就イテ記述シタルモ、今回ハ本症屍體四四例ニ於ケル心筋病變ノ全般ニ就イテ些カ詳細ニ論述シ、之レガ臨床的意義ニ關シ卑見ヲ述ベントス。

(一)、妊娠中ニ著患ナク、產褥ニ於ケル合併症ノ爲メニ死亡セシ例ニ於イテハ、心筋變性ハ比較的輕度ナルカ或ハ之レヲ缺除ス。

(二)、妊娠「ネフロパチー」屍體ニハ殆ンド常ニ心筋變性ヲ認メルモ、臨床上妊娠中毒症ノ輕度ナリシモノハ重篤ナル產褥合併症ヲ有セシモノニテモ、心筋變性ハ比較的輕度ニシテ、心臟衰弱ノ症狀アリシモノ、或ハソノ爲メニ死亡セシ例ニ於イテハ甚ダ高度ナリ。

(三)、子癇ニ於イテハ心筋障碍ハ特ニ高度ニシテ、之レガ痙攣發作後ニ於ケル心臟衰弱ノ主因ヲナスモノト思考セラル。

卽妊娠末期ニ於ケル妊娠中毒症ハ、心筋變性ヲ招來シ、又慢性腎炎ニヨル心筋障碍ヲ增惡セシメルモノニシテ、余ハ之レヲ妊娠中毒症性心筋變性ト稱ヘントス。而シテ此ノ心筋變性ハ妊娠末期或ハ產褥ニ於テ特ニ子癇ノ併發ニヨリテ、屢々心臟衰弱ヲ招來シ、ソノ豫後ヲ不良ナラシムルナレバ妊娠「ネフロパチー」患者ノ診療ニ際シテハ特ニ心臟機能ヲ精査スルヲ要シ、若シ心筋變性ノ徵アリテ爾後苟モ症狀增惡ノ徵ヲ認メシ場合ハ、之レヲ人

工妊娠中絶法ノ適應症ト爲ス可キモノト思惟ス。

四、新産兒假死ニ及ボス電氣刺戟ノ影響ニ關スル實驗的研究(第二回報告)

水田隆之(岡大)

余ハ三一回本會總會ニ於イテ、電流ヲ以ッテ横隔膜神經、又ハ横隔膜ヲ刺戟シ、之レニ依リテ新産兒假死ヲ蘇生セシメントスル電氣的療法ニ關スル研究ノ中、第一報トシテ主ニ窒息ニヨル假死ノ實驗的研究ヲ發表セリ。

即、家兎ノ氣管ヲ閉塞シテ、之レヲ假死ノ狀態ニ陷ラシメ、呼吸ハ停止シ、血壓ハ將ニ零線ニ近ヅカントスル瞬間、家兎ノ横隔膜神經又ハ横隔膜ヲ電氣的ニ刺戟スレバ、刺戟ト同時ニ、呼吸ハ強キ深呼吸ヲ營ミ、血壓ハ著シク上昇シテ重症ノ窒息性ノ假死ヲモ迅速ニ蘇生セシメ得タル事ヲ實驗セリ。

依ッテ、余ハ更ニ八木教授ノ新産兒假死分類ニ從ヒ、腦壓亢進、腦挫傷等ニ因ル腦性假死ニ對シ、電氣的刺戟ヲ實驗シ、其ノ成績ニッキ之レヲ發表セントスルモノナリ。

五、新産兒假死ノ藥物療法ニ關スル實驗的研究(第一報)

西村正治(岡大)

新産兒假死ノ成因ハ複雜ニシテ今日少クトモ肺臟性、腦性及ビ心臟性ノ假死ニ分類スベキ事ヲ唱ヘラルヽニ到レリ。然ルニ假死ノ藥劑療法ニ關スル從來ノ實驗的研究ハ主トシテ肺臟性窒息假死ニ限ラレタルノ觀アリテ腦性又ハ心臟性假死ニ關スル實驗ニ乏シ、コレ余ガ本研究ヲ企テタル所以ナリ。余ハ第一報ニ於イテ最近「バイエル」

發賣ノ Icoral (M-oxy-N-äthyl-diäthyl-aminoäthyl-aminolenzol, M-oxyphenyl-propanol-amin) ヲ使用シテ家兎實驗ニ供シ、其ノ結果ヲ報ゼント欲ス。

六、家兎新産仔ニ於ケル肺「レ」像ト組織學的所見トノ比較觀察ニ就イテ

山本英雄(岡大)

嚮ニ余ハ新産兒肺臟ノ「レントゲン」寫眞ヲ研究シ、其ノ生後展開狀態ヲ述ベタリ。今回家兎新産仔ヲ使用シ、コレガ動物實驗ヲ行ヒ、「レ」學的及ビ組織學的ニ比較檢索セリ。實驗ニ供セシ家兎新産仔獸ハ同腹仔獸中ヨリ體重五〇瓦内外ノモノヲ選定使用シ、健常仔獸トシテハ自然分娩仔及ビ人工分娩仔、即開腹術ニヨリテ挽出セシメタルモノヲトリ、之レ等ヲ逐次的ニ檢索シ、一方窒息或ハ假死ニ陷ラシメタルモノ及ビ死産仔獸ニ於イテモ同樣「レ」學的並ニ組織學的研究ヲナシ、兩者間ノ對比ヲ行ヘリ。

七、Hysterosalpingographie ニ關スル實驗的研究

勝矢信司
深田幸男(大阪)

子宮卵管造影法ハ卵管疎通檢査又ハ子宮内ノ形狀ヲ知ル爲メニ、現今産婦人科領域ニ於イテ汎ク用ヰラル、診斷法ナル事ハ周知ノ所ナリ。

而シテ本診斷法ハ被檢者ニ危險症狀又ハ有害作用ヲ及ボスモノニ非ズト一般ニ考ヘラレ居ルモノナルガ、近時

本診斷法ヲ行ヒテ腹膜炎症狀ヲ發シ、又ハ沃度油ガ靜脈內ニ進入セル例ヲ認メラルルアリ。依ツテ演者等ハ之レ等ノ點ニ就イテ、種々ナル條件ノ下ニ動物實驗ヲ行ヒ、得タル成績ヲ報告セントス。

八、產科領域ニ於ケル骨盤ノ「レントゲン」學的研究（其ノ三）

骨盤「レントゲン」像ヨリノ分娩豫後判定ニ關スル總括的觀察

山邊顯彥（京大）

先ニ著者ハ、骨盤「レントゲン」像ヨリ分娩豫後ヲ判定センニハ、啻ニ眞結合線ノ計測ニ止マラズシテ、兒頭ト骨盤トノ關係ヲ最モヨク表ハス撮影法ニ依ルベキヲ主張シ、コレニハ坐位ニ於ケル側面撮影ガ最モ優秀ナルコトヲ示シタリキ。其ノ後著者ハ更ニ引續キテ、臨床的ニ分娩困難ヲ考ヘシムル妊娠末期ノ妊婦ニツキ此ノ撮影法ヲ施行シ、豫後ニツキテ判定ヲ下シ、其ノ分娩經過ヲ觀察シ得タルヲ以ツテ、コレ等ヲ綜合シテ考察ヲ試ミントス。

先ヅ撮影例ヲバ坐位側面像ニ於ケル眞結合線ノ長サニヨリテ正常骨盤、過廣骨盤及ビ狹小骨盤ノ三ツニ分類セリ。此ノ中、正常骨盤ハ其ノ眞結合線ガ一〇、五—一一、五糎ナルモノ、過廣骨盤ハ一一、六糎以上、狹小骨盤ハ一〇、四糎以下ナルモノナリ。更ニ一方、坐位側面像ニ於ケル兒頭ト骨盤トノ關係ヨリシテコレヲⅠ、Ⅱ、Ⅲ及ビⅣ型ノ四ツノ型ニ分類セリ。此ノ中、Ⅰ型ハ兒頭最大周圍ガ骨盤入口腔ヲ通過セルモノ、Ⅱ型ハ兒頭最大周圍ガ略骨盤入口腔ニ在ルモノ及ビ入口腔ヨリ稍上ニ在ルモノ、Ⅲ型ハ兒頭最大周圍ガ骨盤入口腔上相當高キ處ニ在リテ、定位既ニ稍不良ナルモ、尙入口腔ト一定ノ關係ヲ保チ、入口腔ニ入ラントスル姿勢ヲ示スモノ、Ⅳ型ハ

兒頭最大周圍ガ入口腔上遙カ上ニ在リテ兒頭ノ定位全ク不良ニシテ、兒頭ハ入口腔ト全ク無關係ナル像ヲ呈スルモノナリ。以上ノ骨盤ノ大サト、坐位側面像ニ於ケル兒頭ト骨盤トノ關係トヲ以ツテ、撮影例ヲ分類シテ表示セバ第一表ノ如シ。

第一表

	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	
過廣骨盤	7	17	0	1	25
正常骨盤	10	23	4	3	40
狹小骨盤	4	7	5	4	20
合計	21	47	9	8	85

第二表

	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ
過廣骨盤	／	／	／	／
正常骨盤	帝王切開一例	鉗子分娩（前頭位）一例	鉗子分娩（低在橫定位）一例 穿顱術一例	／
狹小骨盤	帝王切開一例 穿顱術一例 自然早產一例 人工早產一例	鉗子分娩（續發陣痛微弱）一例	鉗子分娩（低在橫定位）一例 假死（輕度）一例 假死（兒死亡）一例 人工早產二例	／

「レントゲン」像ヨリハⅠ型及ビⅡ型ニオイテノミ兒頭ノ通過性ヲ確言シ得ルモノニシテ、コレ等ニテハ豫後ハ凡テ良好ナリ。Ⅲ型ニアリテハ、既ニ「レントゲン」像ヨリハ兒頭ト骨盤トノ關係ガ不明ナルモノニシテ、Ⅳ型ニテハ更ニ然リ。茲ニ「レントゲン」像ヨリノ分娩豫後判定ノ限界存スルモノナルモ、著者ノ經驗ハ更ニ、此ノ兒頭ト骨盤トノ關係ノ不明トナルⅢ型及ビⅣ型コソハ、實ニ其ノ分娩豫後ノ不良ヲ暗示セル「レントゲン」像ナルコトヲ明ニシ得タリ。即第一表ニ示セルハ五例ノ坐位側面撮影例中、分娩ニ際シテ處置ヲ要セシモノヲ各々相當欄ニ記入セバ即第二表ノ如シ。

即第一表ト第二表トヲ比較スレバ明カナルガ如ク、Ⅰ型及ビⅡ型ニハソレゾレ出口鉗子術ヲ施セルモノ一例宛アルノミナルニ反シ、Ⅲ型及ビⅣ型(正常骨盤及ビ狹小骨盤ニ於ケル)ニテハ大部分ガ分娩困難ヲ呈セルヲ見ルベシ。僅カニ正常骨盤Ⅲ型ノ四例中二例、正常骨盤Ⅳ型ノ三例中二例、過廣骨盤Ⅳ型一例ガ自然分娩ヲ遂ゲタルノミナリ。狹小骨盤Ⅲ型ニテハ皆ソレゾレ分娩困難ヲ呈シ、狹小骨盤Ⅳ型最モ不良ナリ。

カクノ如キ故ニ、坐位側面「レントゲン」像ハ分娩豫後判定ニ對シテ實ニ有力ナル診斷法ヲ提供スルモノナルヲ知リ得ベク、コレニテⅠ型及ビⅡ型ヲ得バ、豫後良好ヲ確信シ得ベク、Ⅲ型又ハⅣ型ヲ得バ、豫後不良ナルヲ豫知シ得ルモノニシテ、殊ニ狹小骨盤Ⅳ型ハ、「レントゲン」的帝王切開適應ト考ヘテ差支ヘナカラン。

カクノ如ク、坐位側面撮影法ニヨル「レントゲン」診斷ハ、分娩豫後判定ニ對シテ、新領域ヲ開拓セルモノナリト信ズ。

九、再ビ余ノ光度計ニヨル尿中 Histidin 定量法ト Kapeller-Adler 妊娠反應ノ應用ニ就イテ

足高善雄（阪大）

余ハ一昨年大阪醫學會並ニ本學會ニ於イテ Kapeller-Adler 氏 Histidin 反應ト其ノ臨床的價値、附 Stufenphotometer ニヨル尿中 Histidin ノ一新定量法ト題シテ報告シ、ソノ詳細ハ既ニ日本婦人科學會雜誌ニ發表セリ。Kapeller- Adler 氏反應ガ妊娠反應トシテ陽性率高シトスルモ、多クノ追試者ノ成績一定セズ。惟フニ Histidin-ハ常尿ニモ存シ、該反應陽性ナリトノ判定ニ資ス可キ呈色ノ限度ノ不一致ノ依ッテ來ス所ナリ。

余ハ光度計ニヨル尿中 Histidin 定量法ヲ發表シ、尿中 Histidin ハ妊婦ニ特異ナラズ、依ッテ先ヅ正常人尿ト妊婦尿中ノ Histidin ノ量的差異ヲ明カニシ、他方人尿中ニ生理的ニ又ハ病的ニ排泄ノ亢進スル場合ヲ報ジタリ。最近阪大微研細菌化學部ノ瀨良教授一派ハ人尿一〇〇cc中ヨリ純粹ニ Histidin ヲ抽出スル事ニ成功シ、Histidin ハ常尿ノ一成分ナル事ヲ提唱セリ。即正常人尿ニテハ男八% mg、女七% mg ノ平均 Histidin 量ヲ排泄ス。該定量値ハ余ノ證明シ得タル正常人尿中 Histidin 量ト實驗的誤差ノ範圍内ニ於イテ極メテヨク一致ス。而シテカヽル定量値ハ Kappeller-Adler 氏原法ヲ以ッテシテハ、呈色度尙微弱ニシテ陽性ノ判定ノ最低域ニ存ストハ、余ノ既ニ詳述セル所ナリ。余ノ二〇六名ノ妊婦ニ就イテノ研究ニヨレバ九% mg 以下ノ Histidin ヲ證シタルハ二三例、陰性一一例ニシテ之レ等ノ大部分ハ健康妊婦ナラザル事ヲ知レリ。

障碍ナキ正常妊婦ニハ常ニ多量ノ尿中 Histidin ヲ證明ス。妊婦ニシテ尿中 Histidin 陰性又ハ微量ナル時ハ、何等カノ病的障碍又ハ妊娠異常ヲ考慮セシムルニ足ル。惡性絨毛上皮腫又ハ胞狀鬼胎モ亦尿中 Histidin 微量又ハ陰性ナルノ實驗的事實ト A. N. 氏又ハ白井氏生物學的妊娠反應ガ、カヽル場合多ク强陽性ナル事ヨリシテ、兩反應ノ併用ハ之レ等疾病ノ鑑別診斷ニ資スル所大ニシテ、阪大或ハ日生病院等ニ於イテハ實用ニ供シ好結果ヲ得ツヽアリ。

依ツテ Kapellr-Adler 氏 Histidin 反應ハ妊娠ニ特異性ヲ有セザルモ、量的關係ヲ顧慮スル場合ニハ、妊娠反應以外ニ生體ノ新陳代謝ノ狀況ヲ窺知シ得可ク、利用性ノ極メテ大ナルヲ再ビ提唱ス。

第四部

一、「レ」線ノ心臟ニ及ボス影響ニ關スル實驗的研究

第五報　剔出蛙心ニ及ボス「レ」線ノ影響

鰺坂貞美（京大）

余ハ嚮ニ家兎心臟部「レ」線照射ノ電氣心働圖ニ及ボス影響ニ就イテ報ジタルガ、生體動物心臟部ノ「レ」線照射ノ結果ハ嚴密ナル意味ニ於ケル「レ」線ノ直接影響ニアラズシテ諸種ノ要約ニ左右サルヽモノナルヲ以ツテ剔出蛙心ニ就イテ同樣實驗ヲ試ミタリ。

實驗材料ハ體重一五瓦內外ノ雄性靑蛙ノ心臟ヲ剔出シ、ストラウブ氏法ニヨリ心臟ノ自働運動ヲ描記セシム。

榮養液ハ蛙「リンゲル」液ヲ用ヒ、液量ヲ一cc ニ常ニ一定ス。

實驗ノ結果ニヨルニ、電壓一六〇 K. V. ノ硬「レ」線ヲ放射スルトキハ搏動ノ緩徐及ビ不整ヲ來ス。

尙ホ照射前十萬倍鹽酸「アドレナリン」〇、一cc ヲ榮養液中ニ注加スルコトニヨリ前記ノ變化ハ著シク抑制サル。

而シテ照射前一萬倍硫酸「アトロピン」〇、一cc ヲ榮養液中ニ注加スル時ハ「レ」線照射ニヨリ何等ノ影響ヲ來タサズ。

サレド照射前一萬倍鹽酸「ピロカルピン」〇、一cc ヲ榮養液中ニ注加スルトキハ搏動ノ緩徐不整ハ著シク增强ス。

以上ノ事實ヨリ蛙心ハ「レ」線照射ニヨリ迷走神經緊張下ニオカルヽモノナルベシ。

二、硬「レ」線脾臟照射ノ子宮出血止血機轉ニ關スル研究

第五回報告　硬「レ」線脾臟照射ノ家兎子宮運動ニ及ボス影響

池上孟雄（大阪北野病院）

硬「レ」線脾臟照射ノ雌性家兎ノ性器ニ及ボス影響ニ關シテハ、余ハ第三十三回日本婦人科學會ノ席上ニ於イテ報告セル處ニシテ、今回更ニ硬「レ」線脾臟照射ノ家兎子宮運動ニ如何ナル影響ヲ及ボスヤニ就キテ健康成熟雌性家兎三〇例ヲ用ヒテ「レ」線脾臟照射ヲ行ヒタル後六時間、二十四時間、三日目、七日目、一ヶ月目及ビ對照ノ六

群ニ分別シ、各例ニ對スル子宮運動ヲ觀察スルト同時ニ諸種藥物卽「アドレナリン」、「ピロカルピン」、「ピツイトリン」、「バリウム」、「ゼカコルニン」ノ感受性ヲ生體並ニ副出子宮ニ就キテ比較研究セル結果ヲ報告セントス。

三、惡性腫瘍ノ「レ」線治療時ニ於ケル血管ノ態度ニ就キテ(「レ」線寫眞)

山本　正（京大）

先ニ我ガ教室ノ川上氏ハ惡性腫瘍ノ「レ」線大量照射時ニ於ケル晩期ノ腫瘍血管ニ就キテ報告セリ。余ハ今回加藤系家兎肉腫ニ不完全治癒量(一紅斑—三紅斑量)ノ「レ」線照射ヲ行ヒ、コノ際ニ於ケル同腫瘍內及ビ周圍ノ血管ノ狀態ヲ檢スル目的ヲ以ッテ照射後種々ノ時間的經過ニ從ヒ、血管造影劑注入法ニヨリテ之レヲ觀察セリ。

一、早期所見

一紅斑量(六〇〇r)照射例ニ在リテハ、照射後十二時間目ノ像ニ於イテハ可成著明ノ血管擴張ヲ認ムルモ、時ト共ニ減退シ、三十六時間像ニテハ對照ト殆ンド差異ヲ示サヾル迄ニ擴張ノ減少ヲ示セリ。三紅斑量ニ在リテハ十二時間目像ニテハ最モ著明ナル血管擴張ヲ示シ、三十六時間像ニモ尙可成ノ擴張ヲ殘スモ、七十二時間目ニ到リテ著シキ擴張ノ減少ヲ示セリ。

二、晩期所見

腫瘍照射後三週間以上ヲ經過シ、「レ」線ニヨル治癒不完全ニシテ再發育ヲ旺盛ニ開始セル例ニアリテハ、再發部位ニハ可成著明ノ血管增生ヲ認ム。之レニ反シ腫瘍ノ發育ノ完全ニ停止セル例ニアリテハ血管像ノ著明ナル減

少ヲ示セリ。

四、惡性腫瘍ノ「レ」線完全治療時ニ於ケル轉移特ニ骨轉移ニ就キテ(第三報)

山本　正（京大）

前回余ハ加藤系家兎肉腫ノ「レ」線不完全治療時ニ於イテハ、一般臟器轉移及ビ骨轉移ノ增惡セル傾向ノ存スルコトヲ報告セリ。今回余ハ同腫瘍ニ「レ」線一回大量照射ヲ施シ、ソノ發育ヲ完全ニ停止セル場合(完全治療)ニ於ケル轉移ノ狀態ヲ檢セントシ、早期及ビ晩期治療ノ目的ヲ以ッテ全使用動物ヲ三群ニ分チ、第一群ハ移植後十日目ニ、第二群ハ移植後二十日目ニ、第三群ハ移植後三十日目ニ夫々五紅斑量及ビ七紅斑量ノ「レ」線ヲ腫瘍ノミニ照射シ、コノ際ニ於ケル一般臟器轉移及ビ骨轉移ヲ各群ニ就キテ統計的ニ觀察セル結果、次ノ如キ成績ヲ得タリ。

一、「レ」線一回大量照射ニヨリ同肉腫ノ發育ヲ完全ニ停止セシムルニハ、早期治療(第一群及ビ第二群)ノ場合ハ五紅斑量ヲ、晩期治療(第三群)ノ場合ハ七紅斑量ヲ必要トス。

二、實驗動物ノ生存日數ハ、早期治療ニ於イテハ著明ナル延長ヲ認ムルモ、晩期治療例ニ於イテハ特別ノ延長ヲ證明セズ。

三、一般臟器ノ轉移形成ハ早期治療ノ場合ハ著シク抑制サレ、其ノ度又極メテ輕少ナルモ、晩期治療ノ場合ハ相當ノ類度ト强度ヲ示シ、時ニ非照射例ヲ凌駕スルモノアルヲ見ル。

四、骨轉移ハ早期治療例ニハ全ク證明サレズ、晩期治療例ニ於イテハ對照ニ比シ、稍類數ニ發來セルヲ認メタ

リ。

五、肉腫白鼠全身照射ニ於ケル諸種光線ノ影響ニ就イテ

江崎四十男（京大）

紫外線光源トシテハ「アクメ」風壓冷却式水銀石英燈ヲ用ヒ、此ノ波長二一二—五七五 mμ 可視線光源トシテハ「マツダ」瓦斯入五百W電球ヲ用ヒ、此ノ波長四一七 mμ 以上、赤外線光源トシテハ松下反射型二四〇W電熱器ヲ用ヒ、此ノ波長約七六〇 mμ 以上ナリ。以上三種ノ光線ヲ用ヒ、毎日一定時間宛、十五糎ノ距離ヨリ肉腫白鼠ノ全身照射ヲ行ヒタリ。

白鼠ハ比較的幼若ナル者ヲ遮光裝置ヲ爲セル特殊ノ箱中ニ飼養シ、照射開始ト同時ニ、又ハ開始後數日ヲ經テ、本田系肉腫ヲ背部皮下ニ移植シ、數日後腫瘍ノ觸ルヽニ至リテ爾後隔日ニ其ノ三經ヲ測定シ發育ヲ比較ス。本肉腫ノ移植粥ヲ Tyrode 氏液ニテ十分洗滌スル事ニ依リテ其ノ移植率ハ百%陽性ナリ。少量照射群ニ於イテハ、移植ト同時ニ照射ヲ開始セル者ニテハ對照ニ比シ肉腫發育ニ變化ヲ呈セズ。照射開始後ニ移植セル者ニ於イテハ紫外線照射ノ者僅カニ發育ヲ抑制セラルヽガ如ク思ハルヽモ、尙個體ニヨル差異ノ著シキ爲メ明カナラズ。ヨリテ能フ限リ大量ヲ照射セン事ヲ試ミ、照射中絶エズ觀察シテ白鼠ノ耐フル限リヲ照射ス。卽、紫外線約六十分、赤外線、夏季約十五分、冬季約三十分ナルモ、可視線ノミハ數時間照射スルモ苦惱セズ。故ニ約五時間宛ニ止メタリ。カヽル大量照射ニ在リテハ、各光線共幼若白鼠ノ榮養ヲ害シ、最初ハ體重增加スルモ後ニ至レバ却ツテ體

重漸減シ、約一ケ月以内ニ死スル者多シ。對照群（遮光飼養、非照射）ニテハ通常ノ散光線内飼養ノ者ニ比シ著シキ差ヲ認メザリキ。

大量照射ニ於ケル肉腫ノ發育ハ照射開始ト同時ニ移植セル者ニ於イテハ最初稍々發育ヲ促進セル如ク見ユルモ、後ニ至レバ抑制ス。其ノ程度波長短キ程大ナリ。但シ照射時間ヲ考慮スレバ赤外線ノ影響モ比較的著明ナリト言ヒ得可シ。照射開始後移植セル者ニ在リテハ最初ヨリ發育ヲ抑制ス。尙之レ等肉腫發育ニ變化ヲ呈シタル白鼠ノ重要ナル二、三臓器ノ組織學的檢索ヲ爲シタルニ、最モ著明ナル變化ハ脾、淋巴腺等ノ造血器系統ニ認メラレタリ。

六、放射線療法ノ作用機轉（概要）

小南吉男（京大）

第一部　組織培養法ニヨル放射線療法ノ作用機轉ニ關スル研究

雞胎脾臓培養組織ヲ「レントゲン」線ニテ照射スルニ何等ノ特記スベキ影響ヲ見ズ。サレド組織ニ接近シテ金屬板ヲ置キテ照射スル時ハ著明ナル影響現ハル。コハ「レントゲン」線ノ一次線ハ生物學的作用ニ關與セズ、主トシテ二次線、殊ニ二次電子線ガ關與スルニヨルモノナリ。（本項ノ詳細ハ近畿婦人科學會雜誌、一八卷一〇號ニ既ニ發表セル所ナリ。）

第二部　放射線ノ量ト其ノ生物學的作用ノ關係

第一部ニ述ベタルガ如ク、金屬板ニ接シテ置カレタル培養組織ヲ種々ナル量ノ「レントゲン」線ニテ照射スルニ(一)最モ少量ニテハ何等ノ影響ヲ受ケズ、(二)少量刺激作用ヲ認メズ。卽少クモ放射線ノ直接作用ニ於イテハ刺激作用認メラレズシテ、所謂少量刺激作用ハ間接作用(全身作用)ニテ說明セラルベキモノナルベシ。(三)大量照射ニテハ細胞ハ「ネクロビオージス」ニ陷ル。

第三部　放射線照射ノ各種組織ニ及ボス影響

金屬板ニ接シテ置カレタル種々ナル培養組織ヲ一紅斑量以下ノ「レントゲン」線ニテ照射スルニ結締織母細胞、心臟、上皮細胞及ビ組織球ハ何等ノ影響ヲ受ケズ。唯白血球及ビ淋巴球ガ速カニ死滅セリ。

第四部　放射線照射ノ間接作用(全身作用)ト思考スベキ二、三ノ事項ニ就イテ

第一項　放射線照射ニヨル止血作用

放射線照射ニヨル止血作用ハ、放射線照射ニヨリ破壞セラレタル淋巴球及ビ白血球ヨリ產生セラレタル「トロンボキナーゼ」ノ血行ニ移行セルニヨルモノト信ズ。

第二項　惡性腫瘍ニ對スル放射線ノ生物學的作用

予ハ先ヅ家雞肉腫ノ培養セラレタルモノヲ一紅斑量ノ「レントゲン」線ニテ照射セルニ何等ノ影響ヲ見ズ。然ルニ此ノ肉腫ハ文獻ニヨルニ一紅斑量照射ニテ消失スト。故ニ予ハ更ニ家兎肉腫ヲ in vivo ニテ照射シ、其ノ變化ヲ見ルニ、腫瘍細胞ニ何等ノ變化ヲ見ザル時、既ニ其ノ間質ニ於ケル圓形細胞ノ減少及ビ小血管ノ減少ヲ見タリ。之レ等ノ小血管ノ減少ハ處々ニ血栓形成セラレタルニヨルモノナリ。元來惡性腫瘍ノ血管ハ(一)其ノ內皮ハ時ニ

之レヲ欠キ、又ハ變性ニ陷リ、(二)其ノ分枝全ク不規則ニシテ正常ノ血行、行ハレズ、加フルニ(三)放射線照射ニテ破壞サレ、減少セル圓形細胞(白血球、淋巴球)ヨリ遊離セラレタル「トロンボキナーゼ」ノ存スルアリ。カルガ故ニ放射線照射ニヨリ腫瘍ノ小血管ニ血栓生ズルモノト信ズ。カクシテ循環障碍ニ陷レル腫瘍ハ遂ニ或ル潛伏期ノ後死滅スルモノナルベシ。殊ニ Da Fano, Murphy 等ハ淋巴球或ハ白血球ニテ處置セル動物ハ腫瘍ニ對シ免疫性ヲ得タルガ如キ、予ノ推論ヲ支持スルモノナリ。

七、子宮癌放射線療法後ニ現ハレシ血栓症狀ニ就イテ

本多操（倉敷）

高年者或ハ既ニ手術不可能子宮癌患者ヲ治療スルニ當リ「ラヂウム」及ビ「レントゲン」深部照射ハ普通行ハル、方法ニシテ過去數年間吾人モ亦應用セリ。而カモ其ノ根治的效果ハ未ダ確定的ニ凡テノ症例ニ就イテ言フ事ヲ得ザル現狀ニ在リ。而シテ過去數年間ニ於ケル治療成績ヲ見ルニ合併症トシテ腦症ヲ惹起シ、內科的檢査ニヨリ血栓ガ中樞神經部位ニ生ジ、遂ニ其ノ爲メニ榮養障害ヲ來シ、不幸ナル結果ヲトリシ、二、三ノ例ニ就イテ說述シ、同業諸氏ノ高敎ヲ仰ガントス。

八、短波長電波ノ殺菌作用ニ關スル實驗

中島富雄（京府大）

短波長電波ノ殺菌作用ニ關シテハ、試驗管內或ハ生體接種試驗ニヨリ之レヲ明ラカニセラレタル處ニシテ、而

モ該作用ハ溫熱以外ノ生物學的作用ニ因ルモノト想像セラル。而シテ之レ等ハ概ネ所謂超短波長殊ニ極メテ短キ波長ヲ使用セル場合ノ實驗ニシテ、更ニ長キ所謂短波長電波ニ就イテノ報告ハ極メテ少シ。卽余ハ試驗管內試驗トシテ大腸菌、連鎖狀球菌、葡萄狀球菌ニ就イテ一二、五米ノ波長ヲ以ツテ一定溫度ニ上昇セシメタル水槽內ニテ一定時間照射セル場合ト、重湯煎內ニ於ケル同溫度同時間ニ於ケル殺菌ノ狀態ヲ比較觀察シ、他方該菌ヲ家兎膝關節、腔內ニ接種セル場合ノ消長ヲ窺ヘルニ、一二、五米波長ノ有スル殺菌作用ハ諸家ノ報告ニヨル、超短波長ノ夫レノ如ク著明ナラザルヲ認メタリ。

九、幼若植物ノ發育ニ及ボス短波長照射ノ影響

代田四郎（京府大）

一定ノ波長ヲ有スル短波長電波ガ蠶卵等幼若ナル生體ノ發育ニ影響ヲ及ボシ得ル事ニ關シテハ既ニ報告アリ。然レドモ此ノ場合ニ於ケル組織學的ノ所見ニ關シテハ、余寡聞ニシテ未ダ之レヲ知ラズ。又短波長電波ハ、波長其ノ他照射條件ヲ異ニスルニヨリ生體ニ及ボス影響ニモ相異アルハ、先人ノ實驗ヨリ想像ニ難カラズ。

茲ニ於イテ余ハ、大豆、蠶豆及ビ絹糸草ヲ材料トシ、所謂短波長電波ヲ照射シ、之レ等ノ發育狀態ヲ觀察セシニ、同一波長ヲ使用セル場合ニ、一、八「アンペア」二十分間照射セル場合ニハ發育阻碍セラルヽモ、一、〇「アンペア」、十分間照射セル場合ニハ反之發育增進セラルヽノ傾向明カナルヲ認メタルヲ以ツテ、之レガ消長ヲ述ブルト共ニ其ノ組織學的所見ニ就イテ報告セントス。

十、短波長電波ノ組織深部到達性ニ關スル實驗（第一回報告）

志多半三郎
武田龍馬（京府大）

一二、五米ノ波長ヲ以ツテセル場合ノ成績

短波及ビ超短波療法ノ特性トシテ列擧サルヽ點ハ種々アルモ、組織深部到達作用ヲ有スルコトモ亦本療法ノ大ナル特性ト稱セザルベカラズ。然ルニ從來ノ說明ニヨレバ該作用ハ、波長ノ長短ト密接ナル關係ヲ有シ、而モ兩者ハ逆比例スルモノヽ如シ。茲ニ於イテ吾人臨床家ハ短波長乃至超短波長電波ヲ照射シ、以ツテ疾病ノ治療ヲ行ハントスルニ當リテハ、先ヅ各種波長ノ有スル特性ニ就キ吟味スルヲ要スルヤ論ナシ。卽余等ハ短波發振裝置トシテ島津製「アクメラジオテルミー」ヲ用ヒ、一二、五米ノ波長ヲ以ツテ麵麭、筋肉及ビ脂肪ヨリナル模型、或ハ右種臟器等種々ナル材料ニ就キ「ミクロパイロメーター」ヲ以ツテ深部溫度ノ測定ヲ行ヒ、溫熱形成ヲ基準トセル組織深部到達作用ヲ觀察セルニ、余等ノ使用セル波長ニ於イテモ、亦該作用ノ存在明カナルヲ認メ得タルヲモツテ、之レガ消長ニツキ說明ヲ加ヘント欲ス。

第五部

一、「クロロホルム」麻醉ノ腦脊髓液ニ及ボス影響ニ關スル實驗的研究（第一回報告）

「クロロホルム」麻醉ガ腦脊髓液ノ二三物理化學的性狀ニ及ボス影響

「クロロホルム」或ハ「エーテル」ノ吸入麻醉ニ關シテハ既ニ先年我ガ教室ニ於イテ幾多詳細ナル研究ヲ遂ゲラレタリ。然ルニ中樞神經系統機能ト密接ナル關係ニアル腦脊髓液ガ、該麻醉時ニ際シテ如何ナル影響ヲ蒙ルヤニ關シテハ、從來未ダ系統的檢索ヲ缺ケリ。之レ余ガ本研究ヲ企圖セル所以ニシテ、之レニヨツテ麻醉ノ病態生理ニ就イテ其ノ知見ヲ補遺スル所アラントス。

實驗動物トシテハ體重二瓩前後ノ白色健康成熟家兎ヲ用ヒ、之レヲ山田教授ノ「麻醉ニ關スル研究」ニ記載サレタル麻醉裝置第一式ヲ用ヒテ「クロロホルム」(ダンカン青標)ヲ吸入麻醉セシメタリ。腦脊髓液ノ採取ハ家兎ヲ山岡氏法ニ依リテ固定シ、後頭下穿刺ニヨツテ採取ス。

斯クシテ腦脊髓液ノ總蛋白量ハ Brandberg 氏法、「グロブリン」ハ P'andy-Reaktion、屈折率ハ Pulfrich'sche Eintanchrefraktmeter、粘稠度ハ Hess'sche Viscosimeter ニヨリテ測定セルニ其ノ成績ノ概要ハ次ノ如シ。

(一)、總蛋白量ハ麻醉後三十分乃至三時間ニテ最モ著明ニ增加シ、爾後漸次復歸ス。

(二)、「グロブリン」反應ハ麻醉後三十分ニテ最著明ニ現ハル、モ爾後漸次減弱シ、大約八時間ヲ經レバ消失ス。

(三)、屈折率モ亦麻醉後稍々增加スルモ、麻醉後二十四時間ヲ過グル時ハ漸次正常位ニ復ス。

(四)、粘稠度ハ麻醉後稍々增加スルモ其ノ度甚大ナラズ。

中嶋佐（京府大）

二、尿中「コレステリン」ノ排泄ニ就イテ

岡本吉美（阪大）

余ハ「コレステリン」微量定量法ヲ少シク改變シテ尿中ニ於ケル夫レニ應用シ、二、三ノ新事實ヲ得タリト信ズルヲ以ツテ茲ニ之レヲ提唱セントス。

(一)、青年男女子尿中ニ於イテモ「コレステリン」ハ僅微乍ラ常ニ存在ス。

(二)、男子尿ノ夫レハ女子尿ノ夫レニ比シ、概ネ二：一ノ比ニアリ。

(三)、妊婦ニ於ケル夫レハ常ニ著シキ增量ヲ示シ、非妊青年女子ノ夫レニ比シ數十倍ニ達スルモノアリ。

(四)、妊娠各月ノ夫ハ妊娠ト共ニ次第ニ增量ヲ示シ、ソノ曲線ハ概ネ妊娠時卵巢「ホルモン」排出曲線ニ近似ノモノヲ呈ス。

近時性「ホルモン」ノ化學ハ著シキ進歩ヲ示シ、既ニ共ニ其ノ結晶トシテ得ラレ、構造式ヲ知リ、合成ノ域ニ達セリ。茲ニ於イテ「コレステリン」ガ重要ナル役目ヲ演ズルハ既ニ人ノ知ル所ニシテ、以上余ノ得タル成績ハ先人ノ得タル次ノ二事實ノ相對照シテ興味アリトス。卽、

(一)、先ニ余モ亦正常及ビ浮腫並ニ蛋白尿ヲ伴ヘルモノニ就イテ、妊娠時血中「コレステリン」量ヲ定量セルガ、妊娠中其ノ第七ケ月頃ニ於イテ最大値ニ達シ、以後略同樣ノ値ヲ持シ、產褥ニ入リ第七十四日ニテ正常ニ復ス。之レハ Hellmuth, 田原氏等ノ共ニ一致セル成績ナリ。

(二)、森及ビ Reisx ハ Hormon 注射後家兎ノ血中「コレステリン」量ガ增加スルヲ發見セシガ、ソノ增加ハ與

ヘタル「ホルモン」ノ量ニ比例シテ出現スト。

サレド性「ホルモン」ハ既ニ其ノ分布ニ於イテモ甚ダ複雜ナルヲ以ツテ、更ニ精細ナル檢討ヲ加ヘントス。

其ノ他一、二ノ事實ヲ報ズ。

三、腫瘍家兎ノ消化管運動ニ關スル實驗的研究

矢島壽（岡大）

嚮キニ子宮癌患者ノ胃液分泌機能及ビ消化管運動ニ關シテ報告シタル演者ハ、其ノ對照的研究トシテ肉腫家兎ニ試ミタル實驗成績ヲ茲ニ追加致シ度イ。

即二〇〇〇瓦前後ノ雌性家兎ヲ使用シ、腰背部皮下ニ加藤系肉腫ヲ移植シテ種々ナル發育時期ニ於ケル胃腸運動ノ盛衰ヲ觀察スル一方、「レントゲン」照射（二九一五r.表面量）ヲ施シテ之レニ對スル反應狀態ヲ健康動物ト比較シタモノデアルガ檢査方法ハ次ノ如クデアル。

（一）、「ミカバリウム」（20瓦/水60c.c.）ヲ造影食トシテ「ゾンデ」ニヨリ胃内ニ注入シタル後、直チニ四〇度傾斜臺上ニ腹位ニ固定シテ五〇糎ノ上方ヨリ「レントゲン」透寫ヲ行ヒ、以後三〇分一時間ノ間隔ニテ六時間迄連續撮影ヲ繰返ス。

（二）、鐘ケ江式胃曲線描寫法ニ準ジテ内容約一〇〇ccノ「ゴム」球ヲ背位ニ固定セル家兎ノ胃囊ニ挿入シ、二連球ヲ通ジテ二〇糎水壓迄空氣ヲ送リ、「ゴム」球ノ伸縮ヲマレー氏「タンブール」ニヨツテ「キモグラフイオン」ニ導

キ、凡ソ一時間ニ及ブ胃運動ノ變化ヲ描寫セシメル。

四、腦下垂體後葉「ホルモン」（アトニン）ノ家兎肉腫組織呼吸並ニ解糖作用ニ及ボス影響ノ實驗的研究

成松清品（京大）

Warburgハ腫瘍ノ新陳代謝ニ就イテ研究シ、腫瘍細胞ハ含水炭素ヲ酸化スル作用、即呼吸作用ト、之レヲ分解スル作用即、解糖作用ヲ有シ、惡性腫瘍ニ於テハ、殊ニ後者ガ發育增殖ニ重大ナル意義ノ存スルコトヲ明ニセリ。

余ハ嚮ニ腦下垂體後葉「ホルモン」ナル「アトニン」ガ家兎肉腫發育ニ及ボス影響ヲ研索シ、該「ホルモン」ハ腫瘍發育ヲ抑制スルヲ認メタリ。而シテ、ソノ作用機轉ニ關シテハ、種々ノ因子ガ「アトニン」ノ注射ニ依リ、種々ノ結合ニ依ルモノト思推サレルモ、或ハ腫瘍ノ發育ヲ行フ化學的反應、即「エネルギー」發生ニ依ルコトモ亦、甚ダ重要ナル因子ナルコトヲ想像シ、以ツテ「アトニン」ガ家兎肉腫ノ組織呼吸、及ビ解糖作用ニ及ボス影響ヲ研究セリ。

實驗材料トシテハ家兎肉腫ヲ用ヒ、實驗方法トシテハ解糖用リンゲル氏液ニ五〇%ノ割ニ「アトニン」ヲ入レ、之レニ肉腫切片ヲ浮游セシメタル、所謂「アトニン」ノ直接作用ト、豫メ、肉腫家兎ニ「アトニン」ヲ一日一cc宛、十七日乃至二十五日間、持續注射セシメ家兎ノ肉腫ヲ生體ノ儘、剔出セシ二群ニ分チテ、ワルブルグ氏新法ニ依リ、家兎肉腫ノ呼吸及ビ、好氣性、並ニ、嫌氣性解糖率ヲ檢シ、實驗兩群トモ肉腫ノ新陳代謝ヲ抑制セルヲ認メ、

茲ニ報告セントス。

五、子宮癌患者ノ新陳代謝研究

藤田安國（京大）

惡性腫瘍個體ノ尿ノ化學的成分ヲ測定シテ、其ノ新陳代謝ノ狀況ヲ窺知セントシタル研究多シト雖、諸家ノ成績區々ニシテ一致ヲ缺ゲリ。

余ノ子宮癌患者ノ尿ノ化學的成分ヲ測定シテ得タル成績ハ次ノ如シ。

一、子宮癌患者ノ尿ノ總窒素量ハ對照ニ比シ減少ヲ示ス。本變化ハ略々癌ノ進行ニ伴ヒ其ノ程度ヲ增ス。尿酸、窒素、「クレアチニン」窒素及ビ總燐酸モ亦略々總窒素ト並行シテ減少ス。

由是觀之、癌患者ニ於イテハ體蛋白質乃至核酸ノ分解ガ亢進セリト言フコト能ハズシテ、寧ロ體內ニ於ケル分解酸化作用ノ低減ヲ示セリ。又本變化ハ癌素因若シクハ生體ノ防護作用ヲ意味スル反應ニ非ズシテ、癌ニ因ル障碍ノ結果ナリ。

二、屢々安門窒素ノ增量及ビ尿素窒素ノ減量ヲ證明セリ。本變化モ亦大體ニ於イテ癌腫進行ト共ニ其ノ程度ヲ增スモノニシテ、癌素因ヲ意味スルモノニ非ズ、又生體ノ防護作用ヲ意味スル反應ニモ非ズ。癌ニ因ル障碍ノ結果ニシテ、其ノ原因ハ肝臟ノ尿素合成機能ノ障碍ナリ。

三、「アミノ」酸窒素ハ大體ニ於イテ總窒素ト並行シテ減量ヲ示ス。卽肝臟ノ「アミノ」基離解機能ハ略々尋常ナ

ルモノノ如シ。

六、「カルシウム」代謝變化ノ惡性腫瘍ニ及ボス影響ニ就イテ

水野潤二（京大）

余ハ嚮ニ『癌ノ發生ト「カルシウム」代謝』ナル命題ニ對スル第一階梯トシテ、惡性腫瘍ノ存在スル時Ca代謝ニ如何ナル變化アリヤヲ檢索シ、惡性腫瘍存スル時ハ末期ニ近ヅクニ從ヒ流動並ニ沈着Caノ低下ヲ來ス事ヲ認メタリ。然レドモCaノ低下ハ惡疫質、貧血等ノ結果トシテ來ル外、腫瘍「エキス」ノミナラズ正常肝臟、筋肉「エキス」ノ如キヲ注射スル場命ニモ招來セラレタルヲ以ッテ、以上ノ如キ腫瘍ノ存在トCa代謝トノ關係ハ單ニ二次的ニ過ギザルヤ或ハ本質的關係ノ存スルモノナルヤノ疑ヲ生ジタリ。依ッテ第二階梯トシテ個體ニ於ケルCa代謝ヲ變化セシメタル場合、腫瘍ハ如何ナル影響ヲ蒙ル可キヤヲ追究セントシ、單ニCa鹽ノ投與ニヨル直接的(受動的)方法ノミナラズ、上皮小體「ホルモン」、「ビタミン」D投與並ビニ上皮小體摘出ニヨル間接的(能動的)方法等ニヨリテ個體ノCa代謝ノ變化ヲ企圖シ、腫瘍ノ發育ニ及ボス影響並ビニ腫瘍ノCa(K)量ノ變化ヲ檢索シ、認ムル所アリタルヲ以ッテ茲ニ報告ス、

七、人工癌發生經過中ニ於ケル「カルシウム」代謝ノ變化ニ就イテ

水野潤二（京大）

余ハ嚮ニ「惡性腫瘍ノCa代謝ニ及ス影響」並ビニ「Ca代謝變化ノ惡性腫瘍ニ及ス影響」ノ兩方面ヨリノ檢索ニヨリ

悪性腫瘍ノ存在ハCa代謝ニ變化ヲ來スト同時ニCa代謝ノ變化ハ腫瘍ニ影響ヲ及ボシ、兩者ノ間ニ相互的因果關係ノ存在スル事ヲ認メタリ。依ツテ更ニ進ンデ果シテ然ラバ人工的ニ癌ノ發生ヲ企圖シタル場合、其ノ經過中ニ於イテCa代謝ハ如何ニ變化スルヤヲ究メントシ、家兎ノ耳ニ「テール」ヲ塗布シタル場合並ビニ白鼠ニ「オルト・アミド・アゾ・トルオール」ヲ與ヘタル場合ニ於イテ種々ナル時期ニ於ケル血清並ビニ局所Ca(K)代謝ノ變化ヲ檢索シ、興味アル結果ヲ得タルヲ以ツテ報告ス。

八、家兎肉腫組織ノPH並ニ悪性腫瘍靜脈血ノPH變化ニ就イテ

影山壽男（京大）

悪性腫瘍ノ研究ハ從來主ニ其ノ組織學的並ニ生化學的研究ニ沒頭セラレ、又數多ノ輝ヤシキ業績相踵イデ完成セラレタルモ、尙其ノ本體ノ全貌ヲ極ムルヲ得ズ。近時コレガ研究ハ漸次生體ノ全身性變化並ニ體質問題ニ向ケラル、ニ至リ、就中生體ノ酸鹽基平衡ト悪性腫瘍トノ關係ハ甚ダ興味ヲ索クニ到レリ。悪性腫瘍患者ノ血液PHハ上昇セリトノ成績ハ現今一般ニ承認セラル、處ニシテ、予モ又子宮癌患者ニ就テ同樣ノ結果ヲ得タルヲ既ニ述ベタリ。斯カル變化ハ腫瘍ニ對スル生體ノ防禦作用ナリヤ、又ハ腫瘍自體ノ變化ノ餘波ナリヤ、換言セバ一次的變化カ二次的變化ノモノカ？這般ノ問題解決ノ一助トシテ本實驗ヲ企テタリ。

腫瘍組織ノPHニ關シテハ數人ノ研究發表アリ。或者ハ酸性反應ヲ、或者ハ「アルカリ」性反應ナル成績ヲ示セリ。予ノ實驗ハ家兎肉腫組織ニテ「アルカリ」性反應ナル成績ヲ得タリ。悪性腫瘍組織ハ他組織ニ比シ著シク多量

ノ乳酸ヲ生成シ、含有セル事實ハ「ワールブルグ」ノ大業以來諸家ノ均シク確認セル處ナリ。然ルニ尙腫瘍ノ「アルカリ」性ニ反應スルテフ事ハ、悪性腫瘍患者ノ血液反應ノ「アルカリ」側ニ傾ケル事實ト對比考察スル時ハ甚ダ興味アリ。

次ギニ然ラバ悪性腫瘍組織ヲ灌流シ來レル靜脈血ノPHハ他ノ靜脈血ノPHト比較シテ何如。從來行ハレシ腫瘍側ノ靜脈血ハ多量ノ乳酸ヲ含有ステフ諸成績ヨリシテ、果シテ腫瘍側ノ血液PHハ酸性ニ移動セリヤ。予ハ子宮癌手術ノ際採取セル該組織動靜脈血漿並ニ家兎ノ一側耳ニ肉腫ヲ移植シ、他側健常耳トノ兩耳靜脈血ノPH値ヲ測定比較セルニ何レモ腫瘍組織ヨリノ靜脈血漿PHハ高キ値ヲ有ス。

以上諸成績ヨリ總括スルニ、悪性腫瘍患者血液ノPH値高キハ少クトモ、其ノ一部ハ腫瘍ヨリ影響ヲ蒙ルモノナリ。

九、產婦人科領域ニ於ケル血中酸化並ニ還元「グルタチオン」量ノ研究

第一篇　婦人科的疾患特ニ悪性並ニ良性腫瘍患者ニ於ケル血中酸化——還元「グルタチオン」量ノ消長ニ就イテ

藤本修（阪大）

周知ノ如ク生體組織中ニ於ケル「グルタチオン」量ハ該生體ノ酸化還元系ニ重要ナル役割ヲ保持セルモノニシテ、從ツテソノ酸化還元「グルタチオン」量ノ消長ハ生體組織内酸化還元狀態ヲ窺知スルニ極メテ枢要ナル意義ヲ

有スルモノナリ。

然レドモ現今血中「グルタチオン」量ノ定量ニ際シテハ、多ク還元型「グルタチオン」量ニ止マリ、余モ亦曩ニ日本婦人科學會第三十三回總會ニ於イテ妊娠、産褥ニ於ケル血中還元「グルタチオン」量ノ態度ニ就キ、些カ闡明スル所アリタリ。而シテ今日尚ホ本邦ニ於イテハ之レニ酸化型「グルタチオン」量ノ消長ヲ併セ測定セルモノヲ見ズ。偶々余ハ一九三五年 Hoppe-Seyler 誌上ニ Woodward and Fry 氏ノ血中酸化並ニ還元「グルタチオン」量ノ定量法ノ創案セラルヽヲ見、余ハ該法ニ據リテ創メテ産婦人科領域ニ於ケル血中酸化並ニ還元「グルタチオン」量ノ消長及ビ兩者ノ量的相互關係ヲ研索シ、茲ニ婦人科的疾患特ニ惡性並ニ良性腫瘍患者ニ於ケル成績ヲ得タルヲ以ツテ、ソノ一班ヲ報告セントス。ソノ成績ヲ通覽スルニ惡性腫瘍就中子宮癌患者ノ血中酸化並ニ還元「グルタチオン」量ハ良性腫瘍患者ノソレニ比シソノ量、共ニ低ク他ノ婦人科的疾患ニ於イテハ正常値ニ比シ差ヲ認メザルモノヽ如シ。

第六部

一、心臓及ビ血管系ニ及ボス所謂惡性腫瘍毒素ノ作用

岡本さかき（京大）

演者ハ所謂惡性腫瘍毒素ノ心臓血管系ニ及ボス作用ヲ知ランガ爲メニ、子宮癌「エキス」及ビ家兎肉腫「エキス」

（酒精抽出）ヲ用ヒテ、該「エキス」ヲ反覆靜脈内ニ注射シタル家兎ノ心筋並ニ大動脈壁（大動脈根ニ於ケル）ノ變化ヲ組織學的ニ檢シタル外、該「エキス」ノ割出及ビ生體摂心搏動、家兎血壓並ニ家兎耳殼血管及ビ摂後肢血管ニ及ボス作用ヲ檢索シ、以ツテ次ノ如キ結果ヲ得タリ。ソノ際何レモ對照トシテハ家兎筋肉「エキス」ヲ用ヒタリ。

一、子宮癌「エキス」、家兎肉腫「エキス」ノ反覆注射ニヨリテ家兎心筋ニ輕度ノ脂肪變性、大動脈内膜ニ脂肪沈着、外膜榮養血管周圍ニ細胞浸潤ヲ惹起セリ。斯ル所見ハ家兎筋肉「エキス」ニヨリテハ認メラレズ。

二、惡性腫瘍「エキス」ハ摂心搏動ヲ障碍ス。ソノ作用ハ殊ニ子宮癌「エキス」ニ大ニシテ、對照タル家兎筋肉「エキス」ニハ全然認メラレズ、却ツテ亢進作用ヲ示ス。

三、惡性腫瘍「エキス」ハ家兎血壓ヲ下降セシム。但シコノ作用ハ筋肉「エキス」ニ於イテモ認メラル。

四、惡性腫瘍「エキス」ハ或濃度ニテハ末梢血管ヲ擴張シ、或濃度ニテハ之レヲ收縮セシム。筋肉「エキス」ニ於イテハ收縮作用ノミ存シ、擴張作用認メラレズ。

五、以上ノ心搏動、血壓、血管ニ對スル作用ハ「アトロピン」、「アドレナリン」、鹽化「バリウム」等ノ藥物トノ關係ニヨリ植物性神經系統（副交感神經）ノ侵襲ニヨル以外ニ心臓及ビ血管壁ノ筋肉自己ニ於ケル障碍ニモ因ルモノト思考セリ。

六、惡性腫瘍組織ニ由來シ、心臓、血管壁ニ作用ヲ及ボス配精可溶性有毒物質ノ存在ヲ認メタリ。然レ共惡性腫瘍酒精抽出液中ニ含マルヽ物質ハ單一ノモノニ非ザルベク、ソノ作用ハ腫瘍ノミニ認メラルヽモノト筋肉「エキス」ニモ認メラルヽモノト存ス。

二、惡性腫瘍「エキス」ノ滑平筋臓器ニ及ボス影響

岡本さかき（京大）

演者ハ子宮癌「エキス」及ビ家兎肉腫「エキス」ノ摘出家兎腸管並ニ剔出及ビ生體家兎子宮運動ニ及ボス影響ヲ檢シ、次ノ如キ結果ヲ得タルヲ以ッテ茲ニ報告セントス。

一、惡性腫瘍「エキス」ハ剔出家兎腸管運動ヲ抑制スル作用ヲ有ス。コノ作用ハ殊ニ家兎肉腫「エキス」ニ強シ。對照トシテ使用セル察兎筋肉「エキス」ニハ殆ンド認メラレズ。

二、惡性腫瘍「エキス」ハ生體並ニ剔出子宮運動ヲ促進スル作用ヲ有ス。コノ作用ハ殊ニ子宮癌「エキス」ニ強シ。對照タル家兎筋肉「エキス」ニ於イテハ甚ダ微弱ナリ。

三、惡性腫瘍「エキス」ハ複雜ナル因子ニヨリテ構成セラルヽモノト思考シ得ルモ、子宮癌「エキス」ト家兎肉腫「エキス」ノ作用ニハ質的差異ナク、全ク量的差異ヲ認ムルノミ。筋肉「エキス」ノ作用ニハ腫瘍「エキス」ト同性質ノモノ存スルコトアルモ常ニ甚シク弱キコトヲ認ム。

三、結核及ビ結核菌毒素ノ惡性腫瘍ニ及ボス影響ニ就イテ

今村四郎（京大）

惡性腫瘍ト結核トノ相互關係ニ關シテハ現今コノ兩者ノ間ニ拮抗作用アリヤ否ヤニ關シ種々論議サレオルモノナルヲ以ッテ余ハ主トシテコノ方面ノ關係ヲ動物實驗的ニテ觀察セントセリ。

實驗動物トシテハ「ラッテ」ト家兎ヲ用ヒ、腫瘍ハ本田系「ラッテ」肉腫ト加藤系家兎肉腫トヲ用ヒタ。結核菌トシテハ牛型菌トB.C.G.ヲ用ヒ、B.C.G.ハ佛カルメットヨリ鳥潟教授ニ分讓サレシモノヲ用ヒタリ。結核菌毒素ハ傳研製舊「ツベルクリン」ヲ適當ニ稀釋シテ用ヒタリ。

以上ノ操作ニテ行ヒシ實驗成蹟ハ大略次ノ如シ。(イ)「ラッテ」ヲ用ヒテノ實驗。「ラッテ」肉腫ヲ「ラッテ」皮下ニ移植スル前ニ夫々牛型菌及ビB.C.G.ヲ感染セシメシモノヽ腫瘍發育ハ對照非肉腫「ラッテ」ニ比シ大概抑制セラル。牛型菌及ビB.C.G.ヲ肉腫ト混ジテ「ラッテ」背部皮下ニ感染移植セシメシモノニ於イテハ腫瘍ノ發育ハ對照ニ比シ大差無シ。「ラッテ」肉腫ヲ移植スル前及ビ後ヨリ毎日舊「ツベルクリン」皮下注射ヲ續行セシモノニ於ケル腫瘍ノ發育ハ對照ニ比シ大概抑制セラル。(ロ)家兎ヲ用ヒテノ實驗。家兎肉腫移植前及ビ後ニ牛型菌ヲ感染セシメシモノヽ腫瘍發育ハ對照非結核肉腫家兎ニ比シ大概抑制セラル。轉位竈ニ就キテハ明カニ對照ヨリ少數ナル事ヲ見タリ。肉腫ヲ田型菌ト混ジ家兎背部ニ移植感染セシム際ノ腫瘍發育ハ對照ニ比シ結核ノ全身ニ及ビシモノニ於イテ大概抑制セラレ然ラザルモノハ大差ナシ。轉位竈ニ關シテモ全身感染ノ甚シキモノハ少ナク、然ラザルモノハ對照ト大差ナシ。家兎肉腫移植前及ビ後ヨリ毎日舊「ツベルクリン」ヲ注射セシニソノ腫瘍發育ハ對照ニ比シ大概抑制セラル。轉位竈ニ於テモ著明ニ對照ヨリ少數ナル事ヲ見タリ。而シテ「ラッテ」家兎何レモ結核感染及ビ結核菌毒素注射動物ハ腫瘍移植後モ平均シテ榮養良好ニテ生存日數モ對照ヨリ延長スル事ヲ見タリ。

四、惡性腫瘍體外培養ニ於ケル培地液化現象ニ及ボス異種血清ノ影響ニ就イテ

田岡純次郎（京大）

Harrison ニヨリテ組織培養法ノ礎石投ゼラルヽヤ、之レノ研究ニ志ス者多ク、遂ニハ惡性腫瘍體外培養ニ成功シ、腫瘍研究上一新生面ヲ開拓シタリ。然ルニ他ノ正常組織培養ノ急速ナル進歩ヲ遂ゲツツアルニ反シテ、惡性腫瘍ノソレハ甚シク困難ニシテ、現今尙其ノ發達ハ遲々タルモノナリ。抑モ惡性腫瘍組織培養ノ困難ナル所以ノ那邊ニ存スルヤト言フニ、其レハ腫瘍細胞ノ培地血漿ヲ液化スル性質ニ因ルモノニシテ、一度之レガ對策ノ解決ヲ見ンカ、惡性腫瘍培養ハ一新紀元ヲ劃シテ急速ナル進歩發達ヲ來スヤ論ヲ俟タズ。然ルニ之レニ對スル妨止策トシテ今日迄ニ行ハレタルモノ多々アリト雖モ、一トシテ滿足ナルモノ無ク、一人 Fischer ハ正常組織ノ添加ヲ行ヒ、稍々良好ナル成績ヲ擧ゲタルニトドマリ、今日ニ於イテハ比較的良好ナリト認メラルルモノハ異種血漿ノ混合劑剖地ナリ。卽今日ニ至ルモ尙此ノ重大ナル現象ニ對スル特別ナル研究業績ヲ見ザルハ甚ダ遺憾トスル所ニシテ、之レガ解決ヲ計ルハ目下ノ重且大ナル急務ト言フベシ。

余ハ最近異種血清ト培地液化現象トノ關係ヲ調査セントシ、藤浪、稻本系家雞粘液肉腫ヲ體外ニ培養シ、異種血清トシテ、正常家兎血清ヲ作用セシメタルニ、實ニ驚嘆スベキ結果ヲ得タリ。卽余ノ方法ニ依レバ移植前ニ於イテ大多數ノ液化現象ヲ認メタル組織モ、異種血清添加後ハ忽然トシテ其ノ現象ヲ中止シ、原組織全周圍ヨリハ宛モ堤防ヲ越エテ氾濫スル河水ノ如ク組織發育ヲ開始シ、數日間觀察スルモ何等ノ變化ヲ認メザリキ。依ツテ茲ニ報告シ、諸先輩ノ御高評ヲ仰ガントス。

五、局所鬱血ノ惡性腫瘍發生並ニ發育ニ及ボス影響ニ就イテノ實驗的研究

第一報　局所鬱血ノ家兎「テール」癌發生ニ及ボス影響ニ就イテ

東　清（京大）

惡性腫瘍ノ發生素因トシテ、全身的並ニ局所的素因ノ存スルハスデニ諸家ノ齊ク認ムル所ニシテ、之レニ關スル臨床的研究及ビ實驗的研究等多クアリ。

演者ハ臨床上鬱血ノ絕エズ認メラルヽ、局所及ビ器官ニ癌腫ノヨリ多ク證明セラル、事實ヨリシテ、局所的素因トシテノ鬱血ガ惡性腫瘍發生ニ如何ナル意義ヲ有スルヤヲ知ラント欲シ、家兎「テール」癌發生機轉ニ及ボス局所鬱血ノ影響ニ就イテ實驗的研究ヲ行ヘリ。

實驗方法、實驗動物トシテ雄性、白色、體重一・八瓩乃至二瓩ノ家兎ヲ擇ビタリ。實驗ニ用ヒタル「テール」ハ京都瓦斯會社製ニシテ之レヲ「オレーフ」油ニテ倍量稀釋シテ每週二回家兎耳翼內面ニ塗布セリ。塗布ハ兩側ニ行ヒ塗布開始後十五日目ヨリ每日二—三時間右側耳翼基部ヲゴム帶ニテ緊縛シ、鬱血ヲ惹起セシメ、左側ヲ對照トナシ、實驗動物數十八ニ就イテ兩側耳翼內面ニ生ズル新生物發生機轉ヲ比較觀察セリ。觀察期間ハ最長七ヶ月ニ亙ル。

實驗成績、成績ヲ綜合スルニ毛囊ノ開大ハ對照側ヨリ强ク、「パピローム」樣新生物ノ初發時期ハ對照側ニ比較シテ早ク、且ソノ數多シ。然ルニ百四十日ヲ經過シテ尙生存セルモノニ就イテ見ルニ、兩側ノ新生物發育程度殆

ンド同樣ナルカ、又ハムシロ對照側ニ稍々優レル例ノ存スルヲ認メタリ。

以上ノ結果ヨリ局所鬱血ハ「テール」癌發生機轉就中「パピローム」發生ニ好條件ヲ與フルモノナリトノ一知見ヲ得タリ。

六、局所鬱血ノ惡性腫瘍發生並ニ發育ニ及ボス影響ニ就イテノ實驗的研究

第二報　局所鬱血ノ家兎肉腫發育ニ及ボス影響ニ就イテ

東　清（京大）

局所鬱血ハ家兎「テール」癌發生機轉ニ好條件タルコトヲ認メタルガ故ニ、然ラバ惡性腫瘍發育ニ關シテハ該條件ハ如何ナル影響ヲ及ボスヤヲ究明セント欲シ、本實驗ヲ行ヘリ。

實驗動物、並ニ局所鬱血惹起方法共ニ前報ニ同ジ。

實驗方法、家兎兩側耳翼外面皮下ニ加藤系家兎肉腫粥ヲ生理的食鹽水ニテ三倍稀釋攪拌シテ、得タル肉腫壓搾液ヲ各二cc宛注射シテ肉腫移植ヲ行フ。

移植後十日目ヨリ毎日三時間右側耳翼ニ前記方法ヲ以ッテ鬱血ヲ惹起セシム。而シテ腫瘍發育ノ程度ハ其ノ後三日毎ニ測定セシ腫瘍ノ長、横厚ノ三徑ノ總和ヲ以ッテ當時ノ大サヲ表シ、十日目ノ測定値（A）及ビ現測定値（B）ヨリ $\frac{B}{A}$ ナル比較成長率（E）ヲ求メ、之レヲ對照側（左側）ノソレト比較研究センタメ、コヽニ一定ノ發育曲線ヲ得タリ。

移植後十五日目頃ヨリスデニ耳翼後部ノ淋巴腺ノ腫瘍性腫大ヲ認メ、コレガ大サモ、主腫瘍ト共ニ測定ヲ行フコトヽセリ。

實驗成績。得タル腫瘍發育曲線ヲ見ルニ、鬱血惹起側ハ何等對照側ト大差ナキガ如シ。而シテ耳翼後部淋巴腺腫瘍ニ於イテハ稍々對照側ヨリ發育良好ナルヲ認メタリ。

以上ノ結果ヨリ局所鬱血ハ家兎肉腫發育ニ何等影響スル所ナシト云フヲ得ベク、前報實驗ト綜合シテ局所鬱血ハ惡性腫瘍發生ニハ好條件タリ得ルモ惡性腫瘍爾後ノ發育ニ關シテハ影響スル所無カラント云フヲ得ベシ。

是等二實驗ニ關スル病理組織學的檢索ハコレヲ次ギノ機會ニ讓ル。

七、諸種金屬「コロイド」並ニ夫レ等鹽類投與ニ依ル肉腫家兎諸臓器、殊ニ腫瘍内分布ニ就イテ

第一報　鐵　劑

吉　良　貞　敏（京大）

放射線ノ生物學的作用ニ關シテ一九一〇年 Barkla ガ、二次「レ」線ノ作用ヲ強調セシ以來、二次「レ」線ノ意義ニ關スル幾多ノ業績續出シ、今ヤ生物學的作用アルハ一次「レ」線ニ非ズシテ、二次「レ」線ナリトイフ考察ハ一般ニ承認サレツヽアリ。抑々放射線ノ生物學的作用ハ、該組織ニ吸收サレシ「エネルギー」ノ量ニ比例スベキノミナラズ、其ノ吸收量ハ放射線ノ通過セシ物質ノ原子量ニ關係スルモノナリトス。近來重金屬ト「レ」線併用ニ依ル腫

瘍治療ニ關スル研究益々盛トナリ、其ノ效果著シキモノアリト唱導サルヽニ當リ、投與セル金屬「コロイド」並ニ其ノ鹽類ノ諸臟器殊ニ腫瘍中ニ如何ニ移行分布スルカヲ正確ニ知ル事ハ重要ナル事ト信ズ。茲ニ於イテ、余ハ先ヅ鐵劑ヲ投與シ、夫レ等ノ分布ヲ定量的ニ測定セント欲ス。

實驗動物ハ約二瓩ノ雄性幼若家兎ヲ使用シ、移植腫瘍株ハ本學病理學教室ヨリ分與サレシ加藤系家兎肉腫ヲ用ヒタリ。使用鐵劑ハ(一)、鐵「エレクロイド」(國光製藥)(二)、枸櫞酸鐵「アンモニウム」(三)、含糖酸化鐵、ノ三種ニシテ、之レ等ヲ皮下及ビ靜脈內ニ注入シ、一ツハ血管ノ灌流ヲナシ、一ツハ灌流ヲ行ハズ單ニ附着セル血液ヲ生理的食鹽水ヲ以テ洗ヒ流シタルモノニ就キ、余ノ改良セル「ロダン」鐵呈色法ニ從ヒ比色的ニ定量分析ヲ行ヒタリ。其成績ノ詳細ニ就キ述ベント欲ス。

八、諸種金屬「コロイド」ノ惡性腫瘍組織酵素作用ニ及ボス影響(第一報)

富井秀夫(京大)

諸種金屬「コロイド」ニ依ル所謂、惡性腫瘍ノ化學療法ニ關スル研究ハ古來枚擧ニ遑アラザルモ、其ノ作用機轉如何ニ關シテハ、今日尙甲論乙駁タルモノアリ。於此、余ハ酵素化學的見地ヨリ諸種金屬「コロイド」ニ依ル影響ヲ檢索シ、本問題闡明ノ一端ニ資セントシ、本實驗ヲ企テタリ。而シテ今回ハ「ヂペプチダーゼ」ニ就イテ報告セントス。

惡性腫瘍トシテハ、加藤系家兎肉腫ヲ用ヒ、金屬「コロイド」トシテハ、國光製藥會社製品ノ金、銀、銅、鐵、蒼鉛「マンガン」、「コバルト」、「プラチン」ノ八種類ヲ用ヒタリ。尙家兎ハ移植後一〇日目ニ於イテ殆ンド同大ニ發育セルモノヽミヲ選ビテ實驗ニ供セリ。注射ハ總テ靜脈內ニ行ヒ、ソノ量ハ pro kilo 一、〇cc ト pro kilo 二、〇cc ノ二群ニ分チ、注射ニ依リ著シク體重ノ減少セルモノハ實驗ヨリ除外セリ。而シテ、注射ハ移植後、一〇日目ヨリ開始シ、二〇日間每日之レヲ反覆シ、次イデ動物ヲ屠殺シ、可及的無菌的ニ腫瘍周邊ノ發育旺盛ナル部ノ「グリセリン」浸出液ヲ作リテ實驗ニ供セリ。尙對照ニハ無處置家兎ノ外保護「コロイド」ヲ前述同樣注射セルモノヲ用ヒタリ。

測定ニハヴアンスライク氏「アミノ」窒素定量裝置ヲ、基體トシテハ「グリチール、グリチン」ヲ用ヒ、尙豫メ檢索セル本酵素ノ至適水素「イオン」濃度 pH 七八ニ於イテ測定セリ。

實驗成績ニ關シテハ、實驗例ノ多カラザルタメ未ダ確言スルヲ得ザルモ、大體次ギノ如キ結果ヲ得タリ。

pro kilo 一、〇cc 注射群ニ於イテハ銅、鐵、ハ聊カ本酵素作用ヲ促進スルモ、水銀ハ殆ンド影響ナク、他ハ多少ハアレ抑制スルモノヽ如シ。

pro kilo 二、〇cc 注射群ニ於イテハ總テ抑制的作用ヲ及ボスモノヽ如シ。

尙金屬ノ差異ニヨル影響ノ强弱度、腫瘍ノ發育ト本酵素作用トノ關係等ノ詳細ニ關シテハ學會當日之レヲ述ベン。

九、惡性腫瘍轉移ニ關スル知見補遺(續報)
淋巴腺障碍時ニ於ケル惡性腫瘍轉移ニ就イテ

岡本さかき(京大)

演者ハ先ニ惡性腫瘍胞細ヲ淋巴管内ニ移植シタルニ、直接移植部ヨリ淋巴ノ流注ヲ受クル淋巴腺ハ勿論、淋巴ガ靜脈ニ注グ迄ニ經由スル淋巴腺ニ悉ク轉移ヲ形成シ、後期ニ至レバ更ニ肺、腎、肝等ニ血行轉移ヲ來スヲ實驗的ニ證明セリ。卽淋巴腺機能ガ正常ナル場合ニ淋巴行中ニ入リタル腫瘍細胞ハ常ニ淋巴腺ニ轉移ヲ形成スルモノナルガ、若シ淋巴腺機能ガ障碍セラレタル場合、猶同樣ニ轉移形成ヲ示スモノナリヤ。換言スレバ淋巴腺機能ト淋巴腺轉移ノ間ニ特別ナル關係ガ存スルヤ否ヤ。斯ル疑問ノ下ニ著者ハ淋巴腺ヲ剔除シ、或ハX線ニテ淋巴腺ヲ障碍シ、ソノ場合ノ腫瘍轉移ノ狀態ヲ觀察シタルガ、ソノ實驗成績ヨリ次ノ如キ結論ニ到達セリ。

(一)、淋巴腺剔除後ニハ早晩淋巴管ノ新生アリテ末梢淋巴管ト中心淋巴管トハ交通スルヲ以ッテ淋巴行性轉移ニハ何等支障ナシ。

(二)、淋巴腺剔除後短時日後ニ其ノ輸入淋巴管内ニ肉腫細胞浮游液ヲ注入スル場合ニハ、剔除部位ニ細胞液ノ漏出アリテソノ部ニ腫瘍ヲ發生シ、其處ヨリ血行轉移ヲ起スベキ可能性生ズ。

(三)、肉腫移植前淋巴腺ニX線ヲ放射スル時ハ、肉腫ノ淋巴腺轉移ハ該腺ガX線ニヨリテ蒙リタル障碍ヨリ恢復セザル間抑制セラル。

淋巴腺ハX線ニヨリテ障碍ヲ蒙ルモ、早晩ソノ機能ヲ恢復シ、ソノ後ハ放射ヲ受ケザリシ時ト略々同樣ニ該腺

ニ轉移ヲ生ズ。

(四)、X線ニヨリ間接ニ内臓諸器官ニ惹起サレタル充血及ビ退行性變化ハ肉腫ノ血行轉移ヲ促進ス。

(五)、淋巴腺ハ部位ニヨリX線ニ對スル感受性ヲ異ニスベク、胸骨淋巴腺ハ膝關淋巴腺ヨリ鋭敏ニシテ、障碍ヲ蒙ルコト强ク、從ッテ放射後ノ該腺ヘノ肉腫轉移ハ抑制セラル、コト大ナリ。

十、O-Amido-azo-toluol ノ成鷄肝臓組織代謝ニ及ボス影響

青地重夫(京大)

余ハ曩ニ O-Amido-azo-toluol ニヨリテ、家鷄肝臓ニ上皮ノ Atypische Wucherung 及ビ腺癌性變化ヲ生ゼシメタルヲ以ッテ、此ノ如キ變化ハ如何ニシテ生ゼルヤ、ソノ本態ニ關シ、之レヲ細胞生理學的方面ヨリ多少トモ闡明スル處アラバ幸ナラントシテ Warburg 檢壓法中ソノ改良新法ニ依リ O-Amido-azo-toluol ノ成鷄肝臓組織ノ組織代謝ニ及ボス影響ヲ檢セルニ興味アル事實ヲ發見セリ。

二十羽ノ家鷄ヲ二群ニ分チ、一群ハ試驗、他ハ對照ニ供セリ。試驗例ニ用フル解糖用リンゲル氏液トシテハ、O-Amido azo-toluol ヲ百cc ノ溫湯ニ飽和溶解セシメタルモノヲ原液トシ、コノ原液ヲ解糖用リンゲル氏液ニテ五十倍ニ薄メタルモノヲ使用セリ。

實驗ノ結果ハ O-Amido-azo-toluol ハ肝臓組織ノ呼吸作用ヲ抑制シ、好氣性並ニ嫌氣性解糖作用ヲ强勢ナラシメ、Fischer 及ビ Büngler ガ慢性「テール」及ビ砒素中毒ニヨリテ得タルト似タル成績ヲ得タリ。卽チ O-Amido-azo-toluol ニヨリ腫瘍素因或ハ Tumor-bereitschaft 生ズルナラント考ヘラル。

露光量違いの為重複撮影

姙娠惡阻特効藥

ゲネゾール

慶大早川醫學博士は、膽汁が臓器毒に對し解毒作用を有することを確認し、膽汁酸製剤たるゲネゾールが、臓器毒又は組織毒中毒症一般に、有力なる治療作用を有することを提唱せられたり。而して同大學婦人科教室に於て、齋藤醫學博士は姙娠中毒症殊に、惡阻に本劑を應用して特効あることを認められ、又藤井醫學博士も惡阻に用ひて百發百中の好成績を收められたり。

適用
一般姙娠中毒症、惡阻、子癇、姙娠腎臓炎、其他一般臓器中毒症。

包裝
同一〇cc 五〇本入 一二・五〇〇
同五cc 五〇本入 一八・〇〇〇

（呈文献試供品）

發賣元
製造元 塩野義商店
本店大阪市東區道修町三丁目
支店 東京市日本橋區本町二丁目

實驗後援

Schutzmarke

獨逸特許アール・ゲオルフエンスタイン驗發創製

アセトナール

カプセル

（特許第乙號）

子宮後壁新治療劑（腟錠）

【組成】本品は一〇%トリクロールブチールアルコールと一〇%アルゾールとを特殊の基礎劑中溶解せるD.R.P.

【適應症】子宮及び子宮附屬器の炎症、殊に慢性炎、白帶下、內膜炎、卵巢炎、腟炎、腟管性狹窄症、妊娠中毒症、產後時出血、膀胱、尿道及び直腸等

【包裝】壓縮 試驗用入 ¥ 2.50

アセトナール・ワキナール ザルベ

【組成】カプセルと同一成分のシロク膠質ニテ包被セイルモノ

【包裝】二百五十瓦、五百瓦壓入、一回用量一瓦半/二瓦

【價格】¥ 5.00 ¥ 9.00

文獻進呈

製造元 獨乙 アクツムクフト製藥會社
輸入發賣元 日本アテンス商會

露光量違いの為重複撮影

姙娠惡阻特効藥

ゲネゾール

慶大早川醫學博士は、膽汁が臓器毒に對し解毒作用を有することを確認し、膽汁酸製劑たるゲネゾールが、臓器毒又は組織毒中毒症一般に、有力なる治療作用を有することを提唱せられたり。

而して同大學婦人科教室に於て、齋藤醫學博士は姙娠中毒症殊に、惡阻に本劑を應用して特効あることを認められ、又藤井醫學博士も惡阻に用ひて百發百中の好成績を收められたり。

適用

一般姙娠中毒症、惡阻、子癇、姙娠腎臓炎、其他一般臓器中毒症。

包裝

同 五〇本入 一二・五〇〇

同 五〇本入 一八・〇〇〇

五本入 一・〇〇〇

（呈文献試供品）

發賣元

株式會社 塩野義商店

本店 大阪市東區道修町三丁目

支店 東京市日本橋區本町二丁目

實驗推奨

東京慶應大學醫學部産婦人科教授 川添正隆博士
東京帝國大學醫學部産婦人科教室 安井修平博士
東京婦人科病院長 羅井政意博士
京都帝國大學醫學部産婦人科教室 鈴野嶺吉博士
九州帝國大學醫學部産婦人科教室 有田純雄博士
熊本市立産婦人科病院長 谷口榮三郎博士
大阪醫科大學産婦人科教授 廣瀬雅一博士
大阪新町婦人病院産婦人科長 内野護次郎博士
大阪國生病院産婦人科長 柏原長弘博士
大阪府看護婦産婦人科病院長 有本誠一郎博士
大阪土居産婦人科病院長 土居豊博士
自恵大阪文化病院産婦人科 竹村直俊博士

Schutzmarke

獨逸伯林アール・ヴォルフエンスタイン教授創製

アセトナール カプセル

（乙種政府特許）

子宮腟患治療劑（錠）

【組成】本品は一〇%トリクロールブチールサリチール酸エステルD.R.P.と一〇%アルゾールとを特殊の基礎劑中四配伍す

【適應症】子宮及び子宮附屬器炎の亦急性、慢に性症、白帶下、内膜炎、周圍炎、實質炎、腟壁性炎屈症、頸管加答兒、原遠時腟炎、腟炎、淋菌及び結核等

【包裝】壹箱 拾貳味入 ¥ 2.50

アセトナール.ワキナール ザルベ

【組成】カプセルト同一成分ニシテ膠質ニテ包被セザルモノ

【包裝】二百五十瓦、五百瓦壹入、一回用量一瓦半/二瓦

【價格】¥ 5.00 ¥ 9.00

始はしる品之有アセトナールの名稱とエレキの商標に御注意を乞ム

文獻 略呈

製造元 獨乙 アテンステット製藥會社

輸入發賣元 日本アテンス商會

大阪市西區北堀江通壹ノ四

♀

効力を國際單位に準據せる

結晶性卵胞ホルモン

オバホルモン

— オバホルモン・ペンツァート —

オバホルモンは生物學的には性器發育並に第二次性徴の形成を促進し又老衰動物の衰退せる諸機能を回復せしむる作用を有し、卵胞ホルモン分泌不足に由來する諸疾患の治療に應用すれば衰退せる諸臓器の機能を鼓舞し、新陳代謝を亢進せしめ、血色・血行を佳良となし、以て婦人の老衰現象を豫防回復せしむ。

【適應症】

1、卵巣機能減退乃至缺落及び更年期障碍に由つて來る諸症。
例へば頭痛、腰痛、倦怠、耳鳴、下腹痛、婦人早老、不正出血、月經早期停止、脂肪過多、關節痛、血壓亢進、心臓血管障碍、四肢冷感等

1、女性生殖器發育不全及び之に原因する20－30歳前後の身体的精神的變更期障碍。
例へば無月經、月經不順、月經寡少、月經過多、不妊症、不感症等

1、卵胞ホルモンの分泌不足に由因する婦人神經系統の病疾患。
例へば神經質、神經衰弱、癲癇症、不眠症。

1、乳汁分泌の不足或は減退、常習性流産、早産。

【價格】

オバホルモン（水溶）100 I.U. 5×1cc(¥1.00) 10×1cc(1.80) 50×1cc(8.00)
600 I.U. 5×1cc(2.00) 10×1cc(3.60) 50×1cc(15.80)
錠剤（1錠=1000 I.U.）10錠(1.60) 25錠(3.60) 100錠(12.80)
錠剤（1錠=100 I.U.）50錠(1.50) 100錠(2.70)
（1錠=500 I.U.）20錠(1.65) 50錠(3.75) 100錠(7.20) 500錠(30.00)
オバホルモン・ペンツァート（油溶）1000 I.U. 5×0.5cc(2.40) 10×0.5cc(4.10)
10000 I.U.5×1cc(2.70) 50000 I.U.3×1cc(5.30) 250000 I.U. 1×1cc(7.50)

發 賣 元 株式會社武田長兵衛商店
大阪市東區道修町
販賣代理店 株式會社小西新兵衛商店
東京市日本橋區本町
製 造 元 株式會社綜合醫藥研究所
川崎市大師町

34－1608(O)

終